

平成 28 年 度

新潟市文化財調査概要

新潟市教育委員会



平成28年度文化財調査（美術工芸品）



金津鉱場ポンピングパワーユニット



旧笹川家住宅保存活用計画検討委員による視察



旧齋藤氏別邸庭園保存活用計画検討委員会



国登録有形文化財となった小松屋旅館（玄関）



新潟市のあゆみ講座（東区開催）



文化財センター体験学習の様子



細池寺道上遺跡出土品（青白磁合子）

目 次

I	平成28年度文化財調査概要	
1	文化財保護体制と文化財の現況	1
	(1) 文化財保護体制	
	(2) 平成28年度組織図	
	(3) 文化財の現況	
2	一般文化財	2
	(1) 文化財新規登録及び登録抹消	
	(2) 第23期新潟市文化財保護審議会	
	(3) 歴史資料の保存	
	(4) 一般文化財の調査、保護、活用	
	① 旧新津油田金津鉾場総合調査	
	② 重要文化財旧新潟税関庁舎耐震補強工事	
	③ 文化財調査	
	④ 動く市政教室	
	⑤ 新潟市旧新津油田金津鉾場総合調査報告	
	(5) 国指定文化財保存活用計画策定	
	① 重要文化財旧笹川家住宅保存活用計画	
	② 名勝旧齋藤氏別邸庭園保存活用計画	
3	埋蔵文化財	20
	(1) 概要	
	(2) 本発掘調査の概要	
	① 細池寺道上遺跡	
	② 大沢谷内遺跡10区	
	③ 大沢谷内遺跡11区	
	④ 筑木遺跡	
	(3) 史跡古津八幡山遺跡の保存活用事業	
	(4) 文化財センター活用事業	
	(5) 牡丹山諏訪神社古墳に関する報告	
II	文化財調査報告	32
	100年前の井戸掘り達の息遣い	
	～旧新津油田金津鉾場木工所文書「油井断面図」が伝える世界～	
III	資料	48
1	国・県・市指定文化財、国登録文化財一覧表	
2	区別・ジャンル別文化財件数表	

I 平成28年度文化財調査概要

1 文化財保護体制と文化財の現況

(1) 文化財保護体制

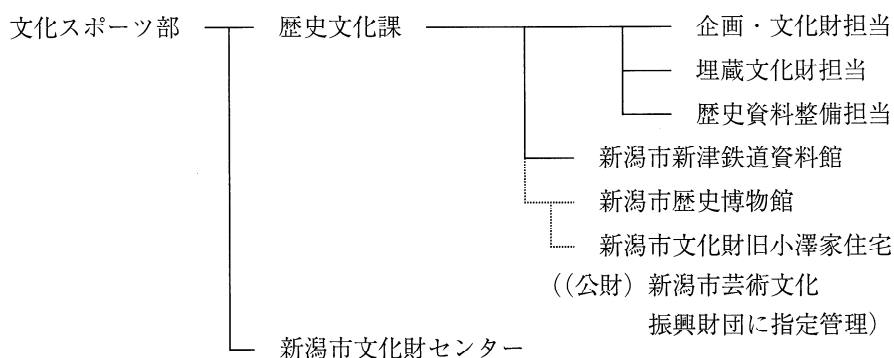
新潟市文化スポーツ部歴史文化課は、課長以下、22名の正規職員、9名の非常勤職員等で構成されている。

平成11年度に教育委員会生涯学習課で所管していた文化財保護事務を市長部局が補助執行することとなり、歴史文化課が誕生した。その後、平成17年の周辺市町村との合併を経て、平成18年4月1日付で、企画・文化財係、埋蔵文化財係、歴史資料係の3係体制となり、平成19年4月1日付で、歴史資料係を組織拡充し、文書館の開設準備に関する事項、公文書分類センターに関する事項を所管する歴史資料整備室を設置した。そして、平成23年4月1日付で、歴史文化課所管の新潟市埋蔵文化財センターを、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し活用する施設として、西区木場に新築移転し課相当の機関「新潟市文化財センター」とした。職員は所長以下13名の正職員と6名の非常勤職員である。また、平成24年4月1日付で新津鉄道資料館に関する事項が分掌事務に追加され、平成25年4月1日より、職員を配置した。更に平成28年4月1日付けで、歴史資料整備室を歴史資料整備担当へ組織変更を行った。

また、各区役所地域課が各区の文化財に関する業務を所管し、区役所に設置される一部の機関（北区郷土博物館、西蒲区巻文化会館、潟東ゆう学館）も文化財に関する業務を所管している。さらに必要に応じて、地区公民館の職員に各区地域課の併任発令を行い対応している。

市内の歴史文化施設の所管については、旧新潟税関庁舎等、新潟市歴史博物館は歴史文化課で所管し、それ以外は区役所が所管している。

(2) 平成28年度組織図



(3) 文化財の現況

平成28年度、新潟市文化財の新規指定及び解除はなかった。平成29年3月31日現在、市内に存する指定文化財は計319件（国19件、県40件、市260件）、国登録文化財は31件である。

文化財の件数（区別の件数、種類別の件数）と、指定文化財及び登録文化財の一覧表は「Ⅲ 資料」として49ページ以降に掲載している。

2 一般文化財

(1) 文化財新規登録及び登録抹消

① 国登録有形文化財の新規登録

文部科学大臣は、平成28年8月1日付けで、文化財保護法第57条第1項の規定により、以下の有形文化財（建造物）を文化財登録原簿に登録した（文部科学省告示第107号）。

ア 原家住宅

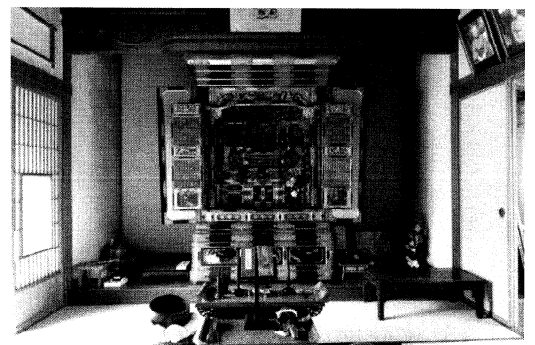
- (ア) 名称及び員数 原家住宅主屋、原家住宅仏間棟、原家住宅茶室、原家住宅離れ、原家住宅土蔵、原家住宅奥土蔵、原家住宅道具蔵、原家住宅味噌蔵、原家住宅米蔵、原家住宅米蔵、原家住宅門 全10棟
- (イ) 登録年月日 平成28年8月1日
- (ウ) 登録番号 第15-0425号～第15-0434号
- (エ) 所在地 新潟市江南区二本木1798 他
- (オ) 建設年代 明治35（1902）年～大正3（1914）年頃
- (カ) 登録理由 国土の歴史的景観に寄与しているもの
- (キ) 図版・所見 新潟大学工学部 建設学科 建築学講座 准教授 黒野弘靖 ほか学生
- (ク) 沿革と建物の特徴

棟札や文書史料から、原家住宅主屋は明治35（1902）年に当主の原栄吉（1865～1934）により建てられた。原家は明治時代中期から土木建築業によって大きくなった新興地主で、明治30年前後からは地主経営も行った。原栄吉は明治22年に建築業を起業し、材木卸業を始め、河川改修・鉄道敷設といった土木工事の請負業を手がけた。主な請負工事実績には、信濃川改築工事（明治27年）、北越鉄道線路工事および各停車場建築工事（明治29～40年）、中蒲原郡役所議事堂建築工事（明治37年）などがある。

式台を構えた主屋には接客用の座敷を並べる。また、土縁を広くとる点に地域的な特色がみられる。仏間棟は仏壇の前面に虹梁を渡し、上部に出組組物を置く荘重な内部を持つ。茶室は三畳と四畳半からなり、周囲に土庇をまわす。敷地内の土蔵群や、表構えをなす門などが一連で登録された。



原家住宅主屋 正面全景



原家住宅仏間棟 内部

イ 敬覚寺本堂

- (ア) 名称及び員数 敬覚寺本堂 1棟
- (イ) 登録年月日 平成28年8月1日
- (ウ) 登録番号 第15-0435号
- (エ) 所在地 新潟市江南区酒屋町606-1
- (オ) 建設年代 大正8（1919）年／平成18（2006）年改修
- (カ) 登録理由 国土の歴史的景観に寄与しているもの

(キ) 図版・所見 図版作成：アトリエ縁 清水徹 所見：(株)グリーンシグマ 山崎完一

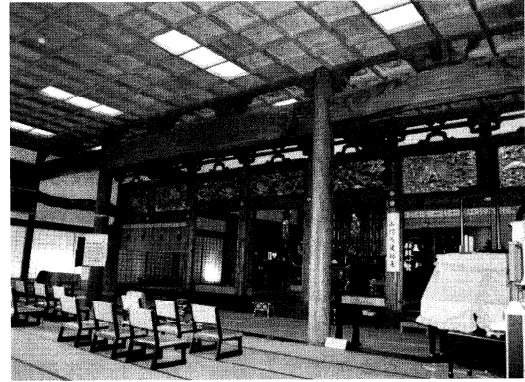
(ク) 沿革と建物の特徴

敬覚寺本堂（真宗大谷派）は、明治36（1903）年の酒屋大火後、大正8（1919）年に再建された（棟札による）。入母屋造棧瓦葺、桁行7間、梁間6間、南面して建ち、正面に一間向拝を付ける。外陣、矢来内、内陣を並べ、内陣は後門形式で左右余間とする。側柱は角柱とし、その他は円柱である。典型的な真宗本堂の形式を備える。

大工棟梁は彌彦神社本殿（大正5年再建）の棟梁を務めた長谷川熊平である。



敬覚寺本堂 正面外観



敬覚寺本堂 参詣の間より内陣側を見る

ウ 小松屋旅館

(ア) 名称及び員数 小松屋旅館本館、小松屋旅館広間棟、小松屋旅館表座敷棟、小松屋旅館奥座敷棟 全4棟

(イ) 登録年月日 平成28年8月1日

(ウ) 登録番号 第15-0436号～第15-0439号

(エ) 所在地 新潟市西蒲区岩室温泉字居掛681

(オ) 建設年代 大正3（1914）年／昭和45（1970）年改修／昭和53（1978）年改修

(カ) 登録理由 国土の歴史的景観に寄与しているもの

(キ) 図版・所見 渡邊設計研究所 渡邊紀夫（ヘリテージマネージャー養成講座修了）

(ク) 沿革と建物の特徴

弥彦神社参詣の拠点として栄えた北国街道沿いの岩室温泉にある老舗旅館。本館に広間棟、表座敷棟、奥座敷棟を複合させた平面で、各室の床の間まわりや階段に良質なケヤキや黒柿を用いるなど、要所に銘木を用い、凝った造作としている。一番古い広間棟は、大正3（1914）年の建築である。東西に庭を配し、切妻造棧瓦葺、平屋建、南北棟で、8畳の天井は3枚の板で張られた大胆な意匠となっている。



小松屋旅館本館 玄関(正面)と表座敷棟(左端)



小松屋旅館広間棟 床の間

② 国登録有形文化財の登録抹消

文部科学大臣は、平成29年2月23日付けで、文化財保護法第59条第3項の規定により、以下の登録有形文化財（建造物）の登録を抹消した（文部科学省告示第21号）。

ア 石山味噌醤油

- | | | |
|------------|--|----|
| (ア) 名称及び員数 | 石山味噌醤油株式会社二号味噌蔵 | 1棟 |
| | 石山味噌醤油株式会社三号味噌蔵 | 1棟 |
| | 石山味噌醤油株式会社五号味噌蔵 | 1棟 |
| (イ) 登録年月日 | 平成12年4月28日 | |
| (ウ) 登録番号 | 15-0053（二号味噌蔵）、15-0054（三号味噌蔵）、15-0055（五号味噌蔵） | |
| (エ) 所在地 | 新潟市中央区湊町通4ノ町3356 | |
| (オ) 所有者 | 石山味噌醤油株式会社 | |
| (カ) 抹消理由 | 当該部登録有形文化財（建造物）の現状変更による全面解体及び撤去 | |
| (キ) 現状変更期間 | 平成27年6月1日着手、平成27年12月28日終了 | |
| (ク) 施行者 | ㈱小飯田工業 | |

イ 創立沿革と敷地概要

石山家本家の初代石山治四郎は、糸魚川から新潟に出て、米を新潟から北海道へ運び、帰路は大豆を運搬する廻船問屋として米穀商を営んでいた。しかし、乱高下する米相場や天候に左右されるため、安定した仕事を求めて明治39（1906）年に味噌醸造業を創業したと伝わる。

その後、治四郎の娘リセが末松に嫁いで分家となり、大正8（1919）年に石山末松商店と石山製造合名会社が合併し、石山味噌醤油㈱となった。法人としては初代末松、2代目市松、3代目松治、4代目謹治と続き、現当主の石山了治で5代目となる。取扱品目は調味料や加工食品にも及んだ。

石山味噌醤油㈱新潟工場は、敷地北側の一般県道565号郷土資料館線（湊町通り）を正面とした敷地内に味噌醸造蔵、麹室、倉庫、事務所など、多くの建物が配置されていた。

敷地の奥は細く南側（裏側）へ続いており、市道中央3-115号線（東湊町通り）に面している。これは、かつて敷地の裏側で、近くを流れていた堀からの荷揚げを行っていたことに由来すると伝わる。

ウ 抹消までの経緯

平成12年4月28日付けで、「石山味噌醤油株式会社二号味噌蔵」「同三号味噌蔵」「同五号味噌蔵」の計3棟が登録有形文化財に登録されたが、業績の悪化から平成27年1月16日付けで民事再生手続開始の決定を受け、味噌工場を閉鎖し、任意売却するに至った。

解体工事は平成27年9月中旬から始まり、同年12月末まで実施された。約3,500㎡を超える敷地内の建物は全て取り壊され、完全な更地となった。

エ 記録保存調査

- | | |
|-------------------|----------------------------------|
| (ア) 調査期間 | 平成27年4月～6月（調査担当：新潟県建築士会 山崎完一他7名） |
| (イ) 聞き取り調査（石山了治氏） | 平成27年4月28日 |
| (ウ) 写真撮影（内外部） | 平成27年5月13～14日 |
| (エ) 現地実測調査・図面作成 | 平成27年5月13～14日 |

オ 建物の概要

(ア) 石山味噌醤油株式会社二号味噌蔵

- | | |
|---------|--|
| 【構造・形式】 | 木造平屋建、瓦葺 |
| 【建築面積】 | 297㎡ |
| 【建築年代】 | 登録当初は明治39（1901）年頃とされていたが、今回の記録保存調査時に新たに明治42（1909）年の同一文の棟札が2枚発見された。 |
| 【登録基準】 | 国土の歴史的景観に寄与しているもの |
| 【特徴・評価】 | 切妻造、棧瓦葺。桁行33m、梁間9m、階高3.7mの南北棟の長大な土蔵で、キ |

ングポストトラスの洋小屋が1間ごとに配されている。東西面の外壁は縦板張りで、北側妻面外壁は黒色板張りであるが、古写真では白漆喰塗仕上げであった。内壁は真壁造漆喰塗で半間ごとに柱が立つ。床はコンクリート金コテ仕上げ、天井は化粧野地表しとなっている。

(イ) 石山味噌醤油株式会社三号味噌蔵

【構造・形式】 木造平屋建、瓦葺

【建築面積】 281㎡

【建築年代】 登録当初は明治39（1901）年頃とされていたが、今回の記録保存調査時に新たに大正2（1913）年と無年号の棟札が各1枚発見された。

【登録基準】 国土の歴史的景観に寄与しているもの

【特徴・評価】 3棟の味噌蔵の中心に建ち、二号味噌蔵と同規模同型式で、1間ごとにキングポストトラスの洋小屋を組み、桁行33m、梁間8m、階高3.7mである。東西面の外壁は縦板張りで、真壁造漆喰塗の内壁には合板が張ってある。床はコンクリート金コテ仕上げ、天井は化粧野地表しとなっている。

(ウ) 石山味噌醤油株式会社五号味噌蔵

【構造・形式】 木造平屋建、瓦葺

【建築面積】 241㎡

【建築年代】 登録当初は明治39（1901）年頃とされていたが、今回の記録保存調査時に新たに大正6（1917）年の棟札が発見された。

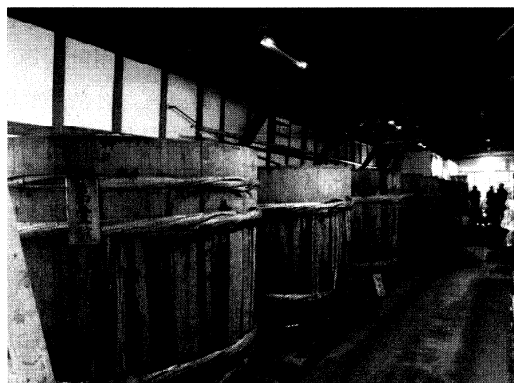
【登録基準】 国土の歴史的景観に寄与しているもの

【特徴・評価】 切妻造、棧瓦葺で、一番西側に建ち、登録当初の所見では創業時の一番古い建築と考えられていた。大正6（1917）年の棟札が発見されたため、この年に新築されたか、または大規模な改修があったと推定される。

桁行33m、手前梁間8m、奥梁間7mで台形平面となっている。階高4.7mである。小屋組は大梁2段で地棟を支える和小屋で、置屋根式の屋根を載せる。東面外壁は縦板張り、道路に面した西面外壁は波板金属板張りとなっている。床はコンクリート土間の上に塗床仕上げ、天井は化粧野地表し、内壁は真壁造で土壁仕上げとなっているが、天井の一部と内壁は化粧合板で覆われている。



石山味噌醤油(株) 正面二号蔵、右側三号蔵、
右端五号蔵（平成27年4月）



石山味噌醤油(株) 二号味噌蔵内部
（平成27年4月）

(2) 第23期新潟市文化財保護審議会

① 委員名簿（任期：平成28年6月1日～平成30年5月31日、役職は平成29年3月31日現在）

役職	氏名	所属・職名等	専門分野等
会長	森田 龍義	新潟大学名誉教授	記念物（植物）
副会長	橋本 博文	新潟大学人文学部教授	記念物（史跡・考古資料）
委員	岩田多佳子	新潟市芸術文化振興財団嘱託	有形文化財（美術工芸品）
委員	小田 節子	元新潟市立内野中学校教諭	無形民俗文化財（邦楽）
委員	加賀谷真梨	新潟大学人文学部准教授	民俗文化財
委員	栗田 裕司	新潟大学理学部准教授	記念物（地質・石油地質）
委員	黒野 弘靖	新潟大学工学部准教授	有形文化財（建造物）
委員	原 直史	新潟大学人文学部教授	有形文化財（古文書・歴史資料）
委員	松岡久美子	近畿大学准教授	有形文化財（彫刻）
委員	山崎 誠子	日本大学短期大学部准教授	記念物（名勝）
委員	芳井 幸子	新潟県立大学非常勤講師	有形文化財（書跡・典籍、近現代史）

② 会議の概要

今年度は2回の会議を、いずれも新潟市歴史博物館において開催した。議事内容は次のとおりである。

ア：第23期第1回議事内容（平成28年6月10日）

（ア）委嘱状交付

（イ）会長・副会長選出

（ウ）平成28年度文化財保護関連事業の概要について

（エ）庭園調査について

（オ）旧新津油田金津鉱場総合調査について

閉会后、新潟市歴史博物館の企画展「新潟風景画展」を観覧

旧新潟税関庁舎視察

イ：第2回議事内容（平成29年3月22日）

（ア）旧新津油田金津鉱場総合調査について

（イ）旧新潟税関庁舎耐震補強工事について

（ウ）旧笹川家住宅保存活用計画策定について

（エ）旧齋藤氏別邸庭園保存活用計画策定について

（オ）古津八幡山遺跡保存活用計画策定について

（カ）平成28年度文化財調査について

閉会后、新潟市歴史博物館の「収蔵品展・新収蔵品展～絵葉書でめぐる日本の名所～」を観覧

第1回会議では、会長・副会長の選出を行った。平成28年度の文化財保護関連事業の概要を説明し了承を得た。その後、文化財調査については、平成26年度より始めた庭園調査についての概要を説明した。調査は平成28年3月までに12か所を行った。庭園調査報告については、平成27年度文化財調査概要に掲載済み。また、旧新津油田金津鉱場石油総合調査についての調査進捗状況と調査によって判明したことなどについて報告した。会議終了後、天井漆喰の落下があった旧新潟税関庁舎の現況について現地視察を行い、現場の状況から落下原因について、今後行うべき修理方法等について意見聴取した。

第2回会議では、最終年度を迎えた旧新津油田金津鉱場総合調査によって判明したこと、今後の文化財指定に向けての取り組み等について報告し意見聴取した。旧新潟税関庁舎耐震補強工事について平成28年度工事、主に耐圧版工法による基礎工事の進捗について報告した。旧笹川家住宅、旧齋藤氏別邸庭

園、古津八幡山遺跡については、保存活用計画の策定がほぼ終了したことで、計画内容についての説明、計画後の保存活用の予定について報告した。その他として平成28年度に行った書籍典籍、絵画、彫刻等についての調査報告を行い、今後の調査の進め方等について意見聴取した。

(3) 歴史資料の保存

① 歴史情報発信事業

ア 「新潟市歴史資料だより」の刊行

イ 増補改訂版『新潟市のあゆみ』の刊行

ウ 歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」の開催

平成17年度より開催している。28年度は、万代市民会館で開催した。全4回でのべ762名の市民から参加をいただいた。各開催日の講師及び講義名は、次表のとおりである。

なお、28年度は初めての試みとして、第4回目に外部講師と歴史文化課職員によるトークショーを行った。

回	開催日	講 師	講 義 名
第1回	9月3日 (土)	伊 藤 充 (新潟大学特任教授)	新潟の町の小学校の歴史 —学校教育資料を読む—
		高 野 まりい (新潟市歴史文化課)	庄屋の見た戊辰戦争 —大安寺村と平島村の庄屋の日記を読む—
第2回	9月17日 (土)	中 村 元 (新潟大学人文学部准教授)	日本近現代史研究から見た1964年新潟地震 —白山小学校児童作文綴の分析を中心に—
		唐 沢 哲 也 (新潟市歴史文化課)	映像で見る新潟の昭和史
第3回	10月1日 (土)	小 島 正 芳 (全国良寛会副会長)	新潟湊と良寛
		有 田 一 正 (新潟市歴史文化課)	川村奉行の見た新潟町の行事 —川村家文書「新潟市中風俗書」を読む—
第4回	10月22日 (土)	高 橋 一 樹 (武蔵大学人文学部教授)	蒲原津・沼垂湊とむすぶ中世の荘園と国領
		長谷川 伸 (新潟市歴史文化課)	戦国期の年貢請取状と検地帳を読む —蒲原郡小吉条と茨曾根関根家文書—
		高 橋 一 樹 長谷川 伸	新潟市域の荘園の魅力を語る ＜トークショー＞

エ 「新潟市のあゆみ」各区の歴史講座の開催

区制移行10周年記念事業として、平成27年度に刊行した『新潟市のあゆみ』(増補改訂版)を用いて、平成28年度と29年度で「新潟市のあゆみ 各区の歴史」講座を開催する。28年度は、次表のとおり開催した。2会場で計99名の市民から参加をいただいた。

区	開催日	会 場	担 当	テ ー マ
東	1月21日 (土)	東区プラザ	唐 沢 哲 也 (新潟市歴史文化課)	二大河川が作りだした東区のあゆみ —東区の歴史—
			長谷川 伸 (新潟市歴史文化課)	阿賀野川だった通船川 —東区域の江戸時代の絵図を読み解く—
中央	3月4日 (土)	クロスパル にいがた	島 垣 武 (新潟市歴史文化課)	港とともに発展を続ける“みなとまち” —中央区の歴史—
			長谷川 伸 (新潟市歴史文化課)	新潟町の形成・拡大と信濃川 —新潟VS沼垂の相論絵図を読み解く—

オ 市政さわやかトークを通しての新潟市の歴史の紹介

市民からの要望に応じて、歴史資料整備担当職員が出向いて各地域の歴史などを解説した。28年度は、市内8か所で計8回、のべ約286名の市民に講義を行った。

カ 自治体史等の販売

『新潟市史』及び『黒埼町史』のほか合併旧市町村の市町村史を販売した。

キ 市内の学校の歴史学習・総合学習への協力

新潟県警察学校へ職員を派遣し、新潟市や地域の歴史について講義や情報提供を行った。



歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」
(トークショーの様子)



歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」
(講座の様子)



「新潟市のあゆみ」講座 東区の歴史



「新潟市のあゆみ」講座 中央区の歴史

② 歴史文書保存整理活用事業

ア 歴史文書のマイクロフィルム撮影及び複製本作成

平成10年度より実施の事業で、歴史文書等の撮影及び焼付け・製本業務を行っている。平成28年度は、南区味方吉田新田古文書・南区味方吉江村古文書・秋葉区新津大安寺坂口家古文書（一部）のマイクロフィルム化及び電子化（DVD作成）を実施した。マイクロフィルム撮影本数は28本、複製簿冊140冊、DVD5枚を作成した。

③ 地域資料調査収集事業

ア 歴史資料の所在確認調査

平成17年度より、合併市町村の主な民間所蔵資料の現状確認調査を実施している。これに加えて、平成25年度からは『新潟市合併町村の歴史』『新潟市史』編さん時代に調査ののち、およそ20年以上経過している資料を中心に、平成28年度は市内各所で計11か所の調査を実施した。

イ 歴史公文書の引き継ぎ

平成6年度より、廃棄公文書の中から歴史的価値のある文書を、選別して歴史公文書として引き継ぎ保存している。平成28年度は、紙媒体で52点、電子媒体で96点、文書保存箱にして25箱を引き継いだ。

ウ 歴史資料の整理

平成28年度は、中央区関屋田町今井泰博氏旧蔵資料、中央区本町通田辺家文書（追加分）、秋葉区大安寺坂口家文書、秋葉区大安寺井浦家文書、秋葉区金津中野家文書の整理及び目録作成を行った。

エ 歴史資料の公開、閲覧、複写

平成28年度は、閲覧230件、複写202件、掲載31件の合計463件の一般利用があった。

オ 寄贈資料の受入

平成28年度は、西区小針の佐々木勉氏、江南区元町の黒黒與志雄氏、中央区関屋田町の今井泰博氏、埼玉県所沢市下富の田邊レイ子氏からの寄贈があった。

④ 歴史的公文書保存事業

ア 公文書分類センターの利用管理

公文書分類センターの収蔵率が高くなったため、保存期間超過文書を廃棄し、一部の文書について収蔵場所をセンター間で移動させるなどの処置を行った。特に味方・新津・月潟公文書分類センターの文書箱の所在について、棚所在図、棚見取り図、文書箱リスト等の作成・更新によって、各課利用の利便を図った。

イ 資産税関係文書の整理

横越公文書分類センターで、新規に移管を受けた資産税関係文書（更正図・土地台帳）の整理を行っている。平成28年度は新津地区 967点の更正図の目録を作成した。

⑤ 加盟団体研修会等への参加

独立行政法人国立公文書館、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、新潟県歴史資料保存活用連絡協議会の研修会に参加した。

(4) 一般文化財の調査、保護、活用

① 旧新津油田金津鉱場総合調査（平成26～28年度）

ア 主な調査

- (ア) 資料調査 平成27年1月～中野邸美術館（現中野邸記念館）中野理事長を訪問し、中野家文書調査開始
- 中野家四の蔵内史料調査 県史編さん時の史料およびそれ以外の未整理史料の整理と調査
- 木工所資料調査 各種図面、建造物見取り図、油井断面図等が見つかる。
- その他の調査 帝石新潟所蔵資料
- (イ) 油田遺構確認調査 平成26年12月～
油田関連残存遺構の悉皆調査
台帳および分布図等作成
- (ウ) 油田遺構実測調査
主な遺構の実測図作成 平成27年2月～ C14、K210、C87、K217等の採油施設実測
- (エ) 油田関連施設の実測調査
ポンピングパワー建屋、送油所、社宅等の実測、見取り図との比較
- (オ) ヒアリング調査
元中野興業小野沢氏ほか、旧丸泉興産職員への聞き取り
金津自治会長青木氏ほか金津集落住民への聞き取り

イ 旧新津油田以外の調査について

- (ア) 県外調査及び視察
- 平成27年3月4・5日 福岡県大牟田市、熊本県荒尾市石炭関連施設視察（三池炭鉱関連遺産）
- 平成27年7月21・22日 秋田市内石油関連施設視察（帝石秋田鉱場、黒川油田等）
- 平成27年12月14・15日 秋田県内石油関連施設視察（豊川油田、院内油田）
- 平成29年2月3日 群馬県富岡市近代化遺産視察（富岡製糸場視察）
- (イ) 県内調査及び視察
- 平成28年6月30日 出雲崎町（尼瀬油田関連）石油関連施設視察
- 平成28年7月5・6日 佐渡市（近代化遺産・史跡関連等）視察
- 平成28年8月2日 東山油田遺物、遺構調査

ウ 調査の検討会及び協議

- (ア) アドバイザー会議
- 第1回 平成27年5月27日 平成26年度調査報告と今後の計画、調査内容の方針検討
- 第2回 平成28年2月5日 平成27年度調査報告と28年度計画
- 第3回 平成28年7月30日 平成28年度前半調査報告と報告書作成協議
- 第4回 平成29年1月30日 調査成果報告と報告書内容検討
- (イ) 文化庁記念物課担当官との協議及び視察
- 平成24年6月28日 現地視察
- 平成26年5月19日 文化庁での協議
- 平成26年11月27日 文化庁での協議
- 平成27年6月3日 文化庁での協議
- 平成27年11月11日 文化庁での協議
- 平成28年6月3日 現地視察
- 平成28年11月11日 文化庁での協議

エ 調査についての外部報告等

- (ア) 地元説明会・報告会等
- 平成26年11月23日 金津自治会への調査説明と協力要請 於：金津自治会館

平成27年11月14日 「石油の世界館友の会10周年総会」

記念講演として調査成果報告 於：キャトルセゾン（秋葉区）

5月12・18日 「新潟市動く市政教室」において市民に現地説明 於：金津鉱場とその周辺地域

平成28年5月29日 金津自治会への調査報告 於：秋葉区里山ビジターセンター

平成28年6月9日 秋葉区自治協議会において調査報告 於：秋葉区役所

（イ）調査報告フォーラム

オ 調査成果

（ア）資料調査成果

- 木工所所蔵史料に係る調査により、昭和28年石油精製施設配置図、昭和58年県道拡幅に伴う集油所等設計図、ポンピングパワー建屋や社宅等の見取り図等、図面類が多数発見された。また、油井断面図により各油井の開削年等に係る一次史料が確認された。
- 県史編さん時史料からは、中野興業元帳などから機器、資材の購入経緯を調査し、ポンピングパワー導入時期などの裏付けができた。
- 中野家住宅四の蔵内の未整理史料について整理に着手した。そのほとんどは、中野貫一、中野忠太郎、中野興業所等に関する手紙、はがき類であった。

（イ）調査成果から判明した金津鉱場の特色

- 明治期、多くの油田は小規模鉱業主が掘削採油事業を行うが、やがて淘汰、合併され、日本石油、宝田石油等の大手が主として大規模な開発を手がけるようになる。しかし、金津鉱場は、長期にわたり中野家及び中野関連会社による採油が行われた。中野家による地元への地域貢献も活発であり、例の少ない「地元密着型」と捉えられる。
- ポンピングパワーシステムをはじめ機械、油井、接続装置、精製施設、管理施設、社宅等の一連の施設群が一体的にまとまってよく残る遺構である（主に明治～大正期に開鑿された油井群と昭和43年以降の丸泉興産時代の精製施設群等の一連のシステムがよく残る）。
- 他油田と比較して、丘陵地の山腹にポンピングパワーを置き、継転機を多用して三筋の尾根の油井群を稼働させる等、地形を有効活用したダイナミックなシステムを伝える遺構である。
- 山間の農村集落であった原集落と油田に係る施設群が一定の住み分けをしながらも一体化している点が大きな特色である。地元密着型油田として、地元集落と共存し発展した油田遺構であり、中野家、堀出神社、社宅群をはじめ、集落と一体となった油田の文化的景観を伝える遺構である。
- ポンピングパワーシステムについては、小さい動力源にもかかわらず数多くの油井から採油できることから新潟、秋田等において減産期に入った後も長期にわたり使用されてきた。また、現存する平ベルト式（band wheel power）ポンピングパワーの金津鉱場導入時期についてこれまで明治40年代とされてきたが、資料調査から導入は大正8年頃と想定された。



明治末期から残る石油施設群



多くの油井とポンピングパワーをつなぐ継転機

② 重要文化財（建造物）旧新潟税関庁舎耐震補強（基礎）工事

ア 文化財の概要

名 称	重要文化財（建造物）旧新潟税関庁舎
構造・形式	木造、建築面積390.1㎡、一階建、棧瓦葺、中央塔屋付、銅板葺
建築年代	明治2（1869）年
所在地	新潟市中央区緑町3437番地 8
所有者	国（文部科学省）
管理団体	新潟市
指定年月日	昭和44年 6 月20日（文部省告示第294号）

イ 経 緯 平成26・27年度に文化庁の国庫補助事業として実施した耐震診断により、具体的な耐震対策案が策定されたため、これに基づき、耐震対策工事のうち基礎補強工事を実施した。

ウ 事業内容

- （ア）工事名称 重要文化財旧新潟税関庁舎耐震補強（基礎）工事
- （イ）事業主体 新潟市（文化庁の国庫補助金を受けて実施）
- （ウ）工事組織 設計監理：公益財団法人文化財建造物保存技術協会
施 工：株式会社田中組
- （エ）事業期間 平成28年10月11日～平成29年 3 月29日

エ 耐震補強（基礎）工事の詳細

（ア）液状化対策としての耐圧版打設工事

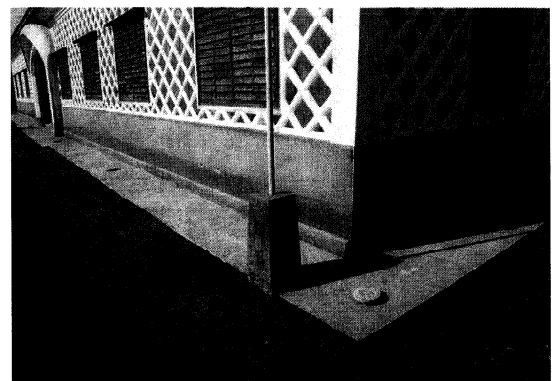
建物自体の揚屋をせずに、床板と束石を撤去し、床下の表層地盤を300mm掘削して地業工事を行い、鉄筋を配筋したうえでコンクリート製の耐圧版（厚さ250mm）を打設した。その後、縦横82本のPC鋼線を既存の布基礎とともに耐圧版に貫通させて両端を緊張・固定し、既存の布基礎と耐圧版を圧着・一体化させて強度を確保した。耐圧版打設により、地震時に地盤の液状化や不同沈下が生じて、その影響が上部の建造物に及ばないような基礎構造の補強が完了した。

なお、耐圧版打設の際、束石の高さと束柱の長さを変更せずに復旧するよう文化庁から指導があったため、構造上の有効性を検討しつつ、各束石の従前の位置でそれぞれ窪ませて掘え直した。

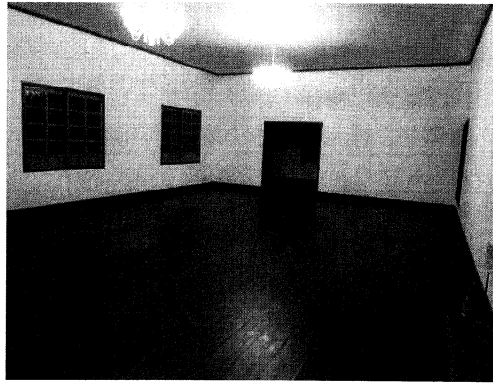
（イ）耐圧版打設工事写真



外構東面（着手前）



外構東面(耐圧版打設・雨水排水マス再設置竣工後)



大広間（着手前）



大広間(耐圧版打設・束石据え直し・床下固定竣工後)

③ 文化財調査

平成28年度 有形文化財調査（絵画、彫刻、書跡・典籍等）

ア 日時 平成28年 9 月 7 日（水）～ 9 月 9 日（金）

イ 調査者 新潟市文化財保護審議会 松岡久美子委員

調査補助 歴史文化課 入江清次

調査補助 歴史文化課 長谷川伸

ウ 訪問先

（ア）安養寺（西蒲区）

内容：市指定「絹本着色地藏菩薩像」現状確認

（イ）真浄寺（中央区）

内容：「木造阿弥陀如来立像」・伝春日作

「絹本着色聖徳太子絵像」、「七高僧絵像」

「絹本着色親鸞聖人絵伝」

（ウ）金仙寺（西蒲区）

内容：「木造聖観音坐像」

（エ）西養寺（江南区）

内容：「木造阿弥陀如来立像」

「絹本着色親鸞聖人真向真影」・永正15年実如

「絹本着色祖師蓮師連坐絵像」文明18年 ほか

（オ）茂林寺（秋葉区）

内容：「重要文化財地藏菩薩半跏像」… 現況確認と保存についての協議

（カ）西厳寺

内容：「木造阿弥陀如来立像」「木造聖徳太子立像」

エ 調査成果

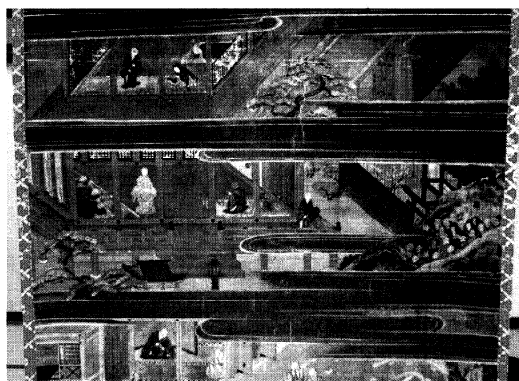
（ア）金仙寺の木造聖観音坐像は今後指定候補に挙げるべきものと判断される。

（イ）真宗特有の文化財に、中世まで遡る作、裏書を伴う作が複数見いだされたことは、大きな成果であった。しかし中には現段階で保管状態が必ずしも良好といえないものもある。今後は、市内に残る真宗文化財の全体像が明らかになった段階で、主要なものを指定していくことが望ましい。

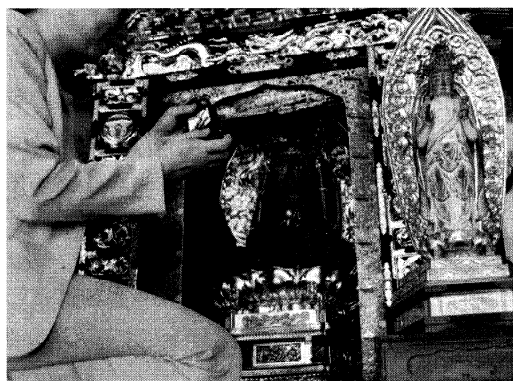
（ウ）「要再調査」とした寺院あるいは作品については、今回の調査では明らかにしきれなかったところがあるため、追加調査が望ましい。特に金仙寺聖観音坐像については、指定を前提とした調査を希望する。

（エ）既指定の安養寺地藏菩薩像1幅（新潟市指定文化財）については、現在の状態が確認された。

なお、目視の限り現段階での保存状態は決して悪くはないが、厨子中に常時奉懸されている現状の管理状況は、保存の観点からいえば望ましくはない。可能であれば普段は巻き納め、行事などの際に懸けるなどの管理体制に移行することが望ましい。



真浄寺「親鸞聖人伝絵」等の調査



金仙寺「木造聖観音坐像」の調査

④ 動く市政教室

ア 概要 広聴相談課からの依頼を受け、市民を対象として、テーマに基づいて文化財所在地をめぐる広報活動。文化財そのものや文化財保護行政についての理解深化をねらいとする。例年1回ないし2回の教室を実施している。

イ 日にち 平成28年5月12日（木）、5月18日（水） ＊同じコースで2回実施

ウ テーマ 「文化財めぐり～史跡と石油～」

市内の史跡や石油に関する遺構をめぐり、市民に新潟市の歴史や文化財、特に今回は市内の史跡と明治大正期に日本一の生産量を誇った旧新津油田についての認識を深めてもらうことをねらいとした。

エ コース 国指定史跡「旧新潟税関」（新潟市歴史博物館：中央区柳島町）→国指定史跡「鳥屋野逆ダケの藪」：中央区鳥屋野 →「石油の世界館」：秋葉区金津 →「旧新津油田金津鉱場跡」（石油の里公園内）：秋葉区金津

オ 成果 動く市政教室では、参加した市民に事後のレポート提出していただいている。それによれば、レポート提出者58名（参加者は62名）の内、「大変満足した」という回答が46名（85%）、「やや満足した」という回答が8名（15%）、「ふつう」0名、「やや不満」0名、「不満」0名、「未記入」1名であった。

「詳細な説明と資料がよい。より深く理解できた。」「未来を見据えた企画だった。」「たいへん詳しい説明で今までわからなかったことがよく理解できた。」（教室全般）「以前も見学しているが、説明を受け理解が深まった。」「県外の友人にも擬洋風建築を案内したいと思った。」（旧新潟税関）、「改めて親鸞越後七不思議を学ぶことができた。」「逆ダケにも種類があることがわかった。」（鳥屋野逆ダケの藪）、「石油採掘の理解を深めるうえで、歴史など全般を知ることができた。」「上総掘や綱式機械掘の原理などが模型で見られてよかった。（石油の世界館）、「平成8年まで石油を採掘していたと聞いて驚いた。当時の人たちの苦労がよくわかった。」「山登りが大変だった。」「わかりやすい説明を聞きながら見学たできてよかった。」（旧新津油田金津鉱場跡）などの声が寄せられ好評であった。

⑤ 新潟市旧新津油田金津鉱場総合調査報告

「フォーラム 新潟の石油文化遺産を探る」

ア 趣旨

本市では、平成26年度から3か年事業として、新津丘陵に点在する石油槽などの採掘・精製施設等の石油に関連する文化遺産について、総合的にその価値を把握する調査を実施してきたが、その文化的価値にかかる調査成果を広く市民に還元し、将来的に国の史跡指定を目指す機運を醸成するために本フォーラムを開催した。

また、調査アドバイザーの専門的な見地による基調講演、来場者の質問をもとにしたパネルディスカッションを行い、広い視野で本市の石油文化遺産について語り合う機会とした。

イ 日 時：平成28年7月30日（土）13：30～16：00

ウ 会 場：新潟市万代市民会館 6階多目的ホール

エ 内 容

（ア）調査概要報告新潟市 歴史文化課 副参事 入江清次

（イ）調査アドバイザー基調講演

「産業遺産を活かす一人々が生きた証を直に伝える新津油田金津鉱場―」

.....長岡造形大学 名誉教授 木村 勉

「近代日本石油産業史における新津油田・中野家事業・金津鉱場」

.....東京経済大学 経済学部 教授 内藤隆夫

「600万年前の金津―油層の砂はどこから来たか―」

.....新潟大学 理学部 地質科学科 准教授 栗田裕司

（ウ）パネルディスカッション

テーマ「旧新津油田金津鉱場の価値と今後の保存活用について」

【パネリスト】

木村 勉氏 （長岡造形大学 名誉教授）

内藤隆夫氏 （東京経済大学 経済学部 教授）

栗田裕司氏 （新潟大学 理学部 地質科学科 准教授）

三ツ井朋子氏 （新潟県教育庁 文化行政課 埋蔵文化財係 専門調査員）

中島哲宏氏 （石油の世界館友の会 事務局長）

【コーディネーター】

入江清次 （新潟市 歴史文化課 副参事）

オ アンケート結果

フォーラム参加者は、約150名であった。油田のある秋葉区からの出席者は34.5パーセントであり、その他の地域からの出席者が約3分の2を占めた。

フォーラムに参加して新潟の石油文化遺産に興味や関心が高まったとの回答が91.9パーセントと大変多く、「もっと知りたい」「また参加したい」との肯定的なご意見をいただいた。



パネルディスカッションの様子



参加者の様子

(5) 国指定文化財保存活用計画策定

① 重要文化財旧笹川家住宅保存活用計画

計画の概要

ア 計画策定年月日 平成29（2017）年3月31日

イ 計画作成者 新潟市教育委員会

ウ 計画策定の体制

旧笹川家住宅保存活用計画を策定するにあたり、「旧笹川家住宅保存活用計画策定検討委員会」（以下「検討委員会」という。）を設置し、市民、関係団体、学識経験者などからの幅広い意見を聴取し、多方面から意見交換を行いながら検討を行った。

検討委員会の開催経過

	開催日	内 容
第1回	平成27年 10月27日	○趣旨説明、これまでの経過報告及び検討委員会の開催について ○会長の選出 ◆議事 (1)平成27年度調査の概要について
第2回	平成28年 3月1日	◆議事 (1)これまでの「旧笹川家住宅」の保存活用の取り組みについて (2)調査報告と意見交換 ・「旧笹川家住宅」の役割・特徴と現状、保存活用について
第3回	平成28年 7月4日	◆議事 (1)「旧笹川家住宅保存活用計画」（素案）について ・計画素案内容についての意見交換と追加調査内容について
第4回	平成29年 1月24日	◆議事 (1)「旧笹川家住宅保存活用計画」（案）について ・最終的な計画案についての意見交換と調整

「旧笹川家住宅保存活用計画策定検討委員会」委員

氏 名	所 属 等	役 割
石垣 雅美	公募委員（東区在住）	
海津 悠平	地元代表（白根青年会議所理事長）	
黒野 弘靖	新潟大学工学部准教授	会長
後藤 治	工学院大学建築学部教授	会長代理
堤 美幸	笹川邸観光PR開発実行委員会	
南雲 友美	にいがた観光カリスマ	
山崎 誠子	日本大学短期大学部准教授	会長代理

アドバイザー

文化庁文化財部参事官（建造物担当）付 整備活用部門主任文化財調査官

幹事

新潟市建築部公共建築第1課長

新潟市文化スポーツ部歴史文化課長

新潟市観光・国際交流部観光政策課長

新潟市南区役所産業振興課長

事務局協力員

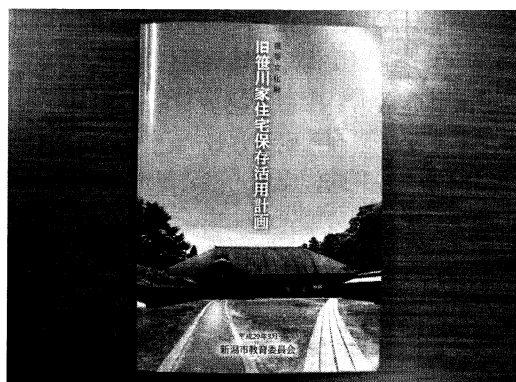
新潟市文化スポーツ部歴史文化課

事務局

新潟市南区役所地域課



旧笹川家住宅保存活用計画検討委員会



旧笹川家住宅保存活用計画（平成29年3月策定）

② 名勝旧齋藤氏別邸庭園保存活用計画

計画の概要

ア 計画策定年月日 平成29（2017）年3月15日

イ 計画作成者 新潟市教育委員会

ウ 計画策定の体制

旧齋藤氏別邸庭園の保存活用計画策定にあたり、「旧齋藤氏別邸庭園保存活用計画検討委員会」（以下「検討委員会」という。）を設置した。事務局を文化スポーツ部歴史文化課とし、庭園及び建造物の学識経験者5名で委員を構成した。会議は全3回開催し、パブリックコメント（市民意見提出）手続きを実施した。以下の本計画の検討組織の所属は、平成29年3月現在である。

検討委員会の開催経過

	開催日	内 容
第1回	平成28年 7月2日	◆報告事項 (1)旧齋藤家別邸の活用について ①旧齋藤家別邸活用の現状と課題 ②平成27年度特色ある区づくり事業 旧齋藤家別邸関係 ③景観特別区域（旧齋藤家別邸周辺地区） ④旧齋藤家別邸に関する取り組み ◆協議事項 (1)旧齋藤氏別邸庭園の本質的価値、大綱、基本方針について (2)保存活用計画の目次構成及び担当について
第2回	平成28年 10月8日	◆協議事項 保存活用計画（案）について ○主な検討課題 ・計画策定の沿革・目的、庭園の本質的価値、現状・課題、大綱・基本方針、保存管理、活用、整備
第3回	平成28年 12月17日	◆協議事項 保存活用計画（案）について ○主な検討課題 ・第2回会議での修正箇所の確認 ・建造物の保護、運営・体制の整備、施策の実施計画の策定・実施、経過観察、計画の改定手続きについて ◆報告事項 古写真募集の結果報告

「旧齋藤氏別邸庭園保存活用計画検討委員会」委員

氏 名	所 属 等	役 割
鈴木 誠	東京農業大学教授	委員長
栗野 隆	東京農業大学准教授	
金出ミチル	長岡造形大学非常勤講師	
飛田 範夫	前新潟市文化財保護審議会委員	
藤田 若菜	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館文化財調査員	

アドバイザー

文化庁文化財部記念物課文化財調査官
新潟市歴史博物館副館長
春秋設計工房代表（作庭者松本亀吉子孫）

オブザーバー

新潟県教育庁文化行政課主任調査員

所管課

新潟市中央区役所地域課

指定管理者

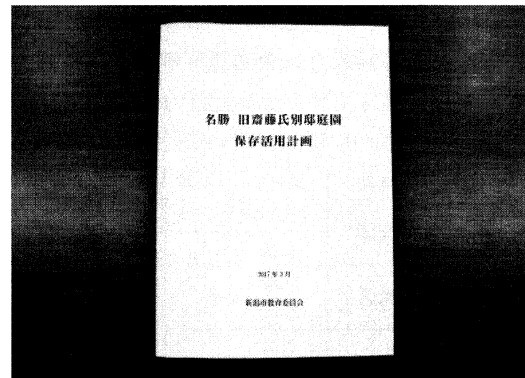
旧齋藤家別邸運営グループ

事務局

新潟市文化スポーツ部歴史文化課



旧齋藤氏別邸庭園保存活用計画検討委員会



旧齋藤氏別邸庭園保存活用計画（平成29年3月策定）

3 埋蔵文化財

(1) 概要

① 埋蔵文化財保護関係事務

新潟市の埋蔵文化財保護行政は、歴史文化課と文化財センターで所管している。

事務分掌としては、開発調整・試掘確認調査・工事立会・史跡整備（史跡古津八幡山遺跡整備を除く）を歴史文化課が担当し、本発掘調査・保存処理・出土品整理活用（再整理・公開普及・資料展示貸出など）を文化財センターが行っている。

開発調整では、原則として国・県・市の行う公共事業や民間の開発行為・農振除外・農地転用・建築確認・不動産鑑定などに伴う申請・届出・照会等に対する事前審査を行い、「新潟市試掘確認調査基準」（平成19年4月1日）に基づいて試掘確認調査の要否を判断している。

なお、平成28年度の審査件数は8,192件（うち民間事業8,014件、公共事業178件）であった。前年度の7,709件と比べ、民間事業は396件、公共事業は87件の増であった。

審査の結果、文化財保護法上の取り扱いとなったものは、法93条（民間事業）関連153件、法94条（公共事業）関連32件であった。

② 試掘確認調査・工事立会

各種開発に先立ち、開発地における遺跡の有無や範囲等を把握し、埋蔵文化財保護協議の資料を得ることを目的に試掘確認調査を実施した。また、工事による遺跡への影響が軽微な場合は工事立会で記録を作成した。平成28年度の試掘確認調査の件数は表1のとおりであった。

なお、平成28年度の試掘調査で7遺跡（No.774童子西遺跡・No.775新田郷南遺跡・No.776吉岡遺跡・No.777下郷西遺跡・No.778赤鎗砂山遺跡・No.779福島土手内遺跡・No.780宮下遺跡）が新たに発見されたことにより、新潟市内の遺跡数は欠番を除き平成28年度末で743箇所となった。

表1 平成28年度の試掘確認調査件数

区名	調査月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
北区	民間	2		1		1	1			2	1	1	2	11
	公共									1		1		2
東区	民間				2					1	2	1		6
	公共			1		1								2
中央区	民間	2	2	1			3	1						9
	公共		3			1			1				1	6
江南区	民間	1		4	2	1	2	1	3		1			15
	公共					3				1				4
秋葉区	民間	3	3	4		1			2		1	3	1	18
	公共						1	1						2
南区	民間	1	1	1	1		1				1	1		7
	公共					1								1
西区	民間					1		1	3	1	1			7
	公共							1						1
西蒲区	民間	2		1	1	2	1	1		1	1	1		11
	公共				1	1	1	2		1				6
合計	民間	11	6	12	6	6	8	4	8	5	8	7	3	84
	公共	0	3	1	1	7	2	4	1	3	0	1	1	24
	合計	11	9	13	7	13	10	8	9	8	8	8	4	総計

③ 本発掘調査

平成28年度の本発掘調査は表2のとおりである。遺跡の発掘調査概要は「(2) 本発掘調査の概要」に記した。

表 2 平成28年度の本発掘調査（現地調査）

遺跡名・区名	原因	調査面積 (㎡)	時代	備考
大沢谷内遺跡 秋葉区	小須戸田上バイパス	2,757.27	縄文晩期・弥生・古墳・飛鳥・古代・中世	発掘調査番号 2016001
細池寺道上遺跡 秋葉区	県営圃場整備	8,716.71	平安・中世・近世	発掘調査番号 2016002
芥木遺跡 江南区	横越バイパス	1,068.0	古代	発掘調査番号 2016003

④ 出土品整理活用事業

これまでの発掘調査等によって得られた記録や出土品を適切に管理し、有効な活用を図るために調査資料の再整理作業を行った。

⑤ 史跡整備及び活用事業

史跡整備では、史跡古津八幡山遺跡（古津八幡山古墳）の整備工事が平成26年度で完了したことから、平成27・28年度に保存活用計画検討委員会を開催し、保存活用計画を策定した。

活用事業では古津八幡山遺跡での体験イベントや、弥生の丘展示館で企画展および関連講演会などを実施した。詳細は「(3) 史跡古津八幡山遺跡の保存活用事業」に記した。

⑥ 牡丹山諏訪神社古墳

平成26年度に東区牡丹山に所在する諏訪神社境内において新潟大学考古学研究室を中心とした発掘調査団による試掘調査が実施され（第1次調査）、発見された遺構や遺物から、古墳であることが確実となった。平成27年度は周濠規模の確認・墳形の確定・埋葬施設の構造確認を目的に確認調査（第2次調査）が実施された。また第2次調査と並行して隣接する民間開発予定地で新潟市教育委員会による確認調査を実施した。

平成28年度は古墳の諸施設の構造を解明することを目的に、墳丘にめぐらせた埴輪列の原位置を特定し、埋葬施設の位置と構造を把握することを目指した調査が実施された。

(2) 本発掘調査の概要

① 細池寺道上遺跡

所在地	新潟市秋葉区東金沢字家浦65-1ほか
調査期間	平成28年6月16日～平成28年12月28日
調査面積	8,716.71㎡
調査の原因	向新地区県営は場整備事業
遺跡の時代	平安時代、鎌倉・室町時代、江戸時代

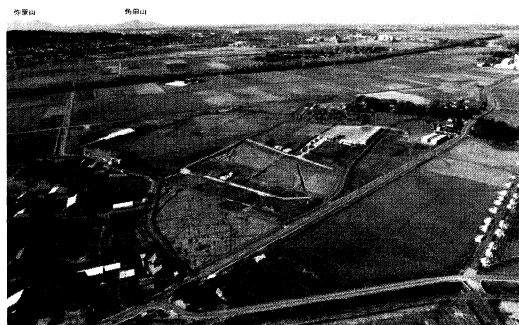
遺跡の概要

細池寺道上遺跡は、阿賀野川・能代川に囲まれた沖積地に立地する。標高は9～10mである。周辺地域は大正時代初期まで、主として桑畑や畑地・水田が一定の方向を持った網目状に広がり、水田は畑地を取り囲むように作られ、地元では「堀田」と呼ばれる景観が維持されていた。大正時代末期から昭和時代初期に行われた耕地整理によって、現在の水田・畑地を中心とした比較的平坦な耕地が形成された。

遺跡の推定範囲は南北1.8km、東西1.1km程で、今年度の調査地は遺跡の中央から南にあたる。調査地点は大きく2区に分かれており、現在の地表から0.4～0.8mに古代（平安時代）、中世（鎌倉・室町時代）、近世（江戸時代）の遺構・遺物が出土した。

遺構は方形区画墓2基、掘立柱建物21棟、柵12列、井戸36基、土坑137基、溝244条、道路状遺構6か所、畑跡10か所に代表される計2,895基の遺構を検出した。中・近世以外に、一部古代の遺構も検出された。

中世は、遺跡の中心的時期と考えられる。掘立柱建物が4棟以上確認され、その他に多くの井戸、道路状遺構や小土坑が存在する。道路状遺構は1区から2区にかけて検出され、両側に側溝があり、北西から南東に若干屈曲している。溝を含めた最大幅は5m程、長さは1・2区間の未掘部分を含め、100m以上にわたると推定される。掘立柱建物は1・2区の東側に1・2間×3間程度で廂を持つものが数棟見つかり、建物の傍らに直径1～3m、深さ1～2m程度の素掘りの井戸を持つ。また、1区の中央南側から長軸7m短軸6mで方形の周溝をもつ区画墓が1基検出された。主体部は南北軸で、平面形は方形で長軸2.35m短軸1.05mの土坑墓である。完形の青白磁合子（巻頭カラー写真）の身と蓋が並んで主体部の中から検出された。また、2区の中央北側にも長軸4.13m短軸3.45mで周溝を持つ方形の区画墓1基が見つかった。主体部は南北軸で、平面形は方形で長軸1.7m短軸1.23mの土坑墓である。墓基底から長さ0.2m程度の漆製品が見つかった。これらの区画墓は大変希少な例で出土遺物から地域有力者がいた可能性がある。また1・2区ともに多く見つかった小土坑は掘立柱建物等を構成すると考えられるが、現在検討を重ねている。中世の遺物は珠洲焼大甕・片口鉢、中世土師器が出土している。その他に石製品・鉄製品がある。近世の遺構は、中世の遺構を切る形で検出した。1区の北側には畑跡が、西側には10基以上の土坑墓を検出した。また、2区の南側では区画された溝の間に近世建物と多くの井戸があった。出土遺物から16世紀後葉から18世紀代の屋敷地と考えられ、唐津焼皿など戦国期～近世前期の遺物が注目される。今回の調査では、古代から近世にかけて長く継続した、集落域の一部と道路跡、当時の有力者の墓などが検出された。



調査地遠景（東から）



1区区画墓完掘（南西から）

② おおさわやち 大沢谷内遺跡10区

所在地 新潟市秋葉区鎌倉94ほか
調査期間 平成28年7月16日～11月15日
調査面積 1767.0㎡
調査の原因 国道403号小須戸田上バイパス整備工事
遺跡の時代 平安時代、鎌倉・室町時代
遺跡の概要

大沢谷内遺跡は新津丘陵と信濃川に挟まれた沖積地に位置し、遺跡範囲は東西約600m、南北約900mに及ぶ。現地表面での標高は3.0～3.5mで、現在は付近一帯に水田が広がっている。大沢谷内遺跡ではこれまでに国道403号バイパス整備工事の事前調査として、平成17年度から断続的に発掘調査が行われ、縄文時代から鎌倉・室町時代にかけての複合遺跡であることが判明している。今年度は遺跡範囲の中央やや南寄りに位置する10区と、10区から160mほど南西側に離れた11区の2箇所について調査を行った。

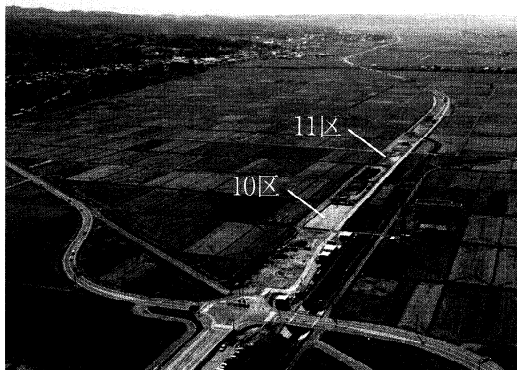
10区の調査では主に平安時代の遺構・遺物が確認された。見つかった遺構は性格不明遺構3基、溝10条、畦畔^{けいはん}7条である。この畦畔に区画された範囲を水田跡と判断し、合計で8基を確認した。

水田跡は調査区北側でまとまって検出している。もっとも大きな区画は長さ約18.8m、幅約9.6m、面積が約180.0㎡である。この水田跡の北東側と南西側を区切る畦畔には水口状の切れ目があり、注排水に使用していたと考えられる。10区の北東側に隣接する9区（平成23年度調査）でも水田跡が確認されているが、水田の方向や規模などに大きな差異は見られないことから、9区の水田域が10区まで続いていたものと推定される。

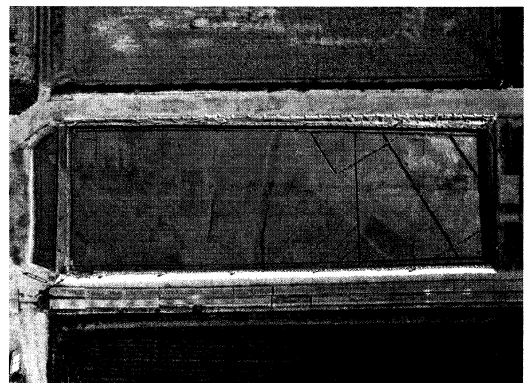
一方、調査区南側には低湿地が広がっており、遺構は確認できなかった。ただ、杭状の木製品が出土しており、低湿地も何らかの形で利用していたことがうかがえる。また、動物の足跡が密集する地点もあり、人や動物の活動痕跡がわずかながら確認された。

出土した遺物の大半は平安時代の土器で、なかでも土師器無台碗や須恵器無台杯などの食膳具が多く見られた。土器の形態から、9世紀後半から10世紀初頭を中心とした時期であると考えられる。このほかに中世の土師器皿や珠洲焼も少量出土している。

近年の大沢谷内遺跡の発掘調査（平成23～25年度調査）によると、遺跡の中央付近にある微高地上に平安・鎌倉時代の居住域が形成され、その周辺の低地に水田等の生産域を配置したと推定されている。10区もこの低地に位置していることから、居住域に伴う生産域の一部であると考えられる。ただ、調査区の北東隅から南西方向には、水田域を区切るように堤防状の高まりが伸びている。その南側では水田跡は検出されず、低湿地が広がっていることから、10区の水田は生産域の南限に当たると考える。



大沢谷内遺跡発掘調査区遠景 北から



大沢谷内遺跡10区調査区全景 北西から

③ ^{おおさわやち}大沢谷内遺跡11区

所在地	新潟市秋葉区鎌倉52-1ほか
調査期間	平成28年4月18日～10月17日
調査面積	989.82㎡
調査原因	国道403号小須戸田上バイパス整備工事
遺跡の時代	縄文時代晩期、平安時代
調査の概要	

大沢谷内遺跡11区は、遺跡推定範囲の南西端にあたり、田上町との境界まで700mほどの距離にある。平成27年度の試掘確認調査で縄文土器が出土し、新たに遺跡範囲に加えられた部分である。境界から田上町側約300mには、同町教育委員会が平成25年度に調査を行い、淳足柵が設置される7世紀後半の遺構・遺物がまとまって出土した行屋崎遺跡がある。

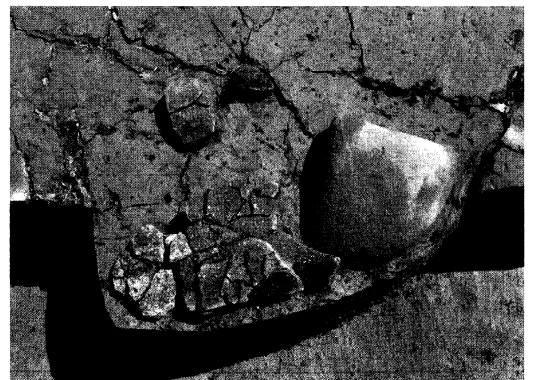
調査は延長約60m、幅17mの範囲を対象とした。調査地の現況は標高3.1mほどの水田で、10区側からはほぼ平坦な地形である。現代と近世以降の水田耕作土の下に、ヨシなど湿った環境を好む植物が完全に腐らずに堆積した泥炭層（いわゆる「ガツボ層」）が、0.5～0.7mの厚さで堆積していた。この泥炭層の下から縄文土器や平安時代の土師器・須恵器、旧河道などが確認された。

縄文土器は、破片数で約200点を数える。すべて煮炊きに使われた深鉢で、縄文時代晩期後葉に限定される。遺物の出土状況から人為的な遺棄・廃棄もうかがわれるが、遺構は確認されず時期的にも限定されることから、一時的な利用を行った場所と考えられる。遺物出土分布は、調査区の南側にまとまりがみられ、旧地形が調査区の南端に向かって高くなることから、調査区外にこの時期の遺跡が広がる可能性がある。過去の国道403号線関連調査では、主に遺跡推定範囲の北東側を中心に、大沢谷内北遺跡や大沢谷内遺跡1～4区で縄文時代晩期中葉、大沢谷内遺跡5・6区で晩期後葉～終末の遺構・遺物が出土している。これまで縄文時代の痕跡が希薄であった遺跡南側において、新たに遺跡分布が明らかになったことは成果の一つである。

調査区北半では、段差地形（SX3）が確認され、残存率の高い土師器碗が比較的まとまって出土している。重なって出土したものや墨書されたものもあり、意図的に遺棄された可能性が高い。このほか調査区南端を南南東から北北西に流れる幅約9mの旧河道がある。旧河道を埋める土は、上層泥炭層、下層粘性土（シルト）層の大きく二つに分けられ、下層では流木や樹木の種子が多く含まれる。堆積層の間には洪水の影響を受けたとみられる層も観察され、河道埋没後には低木の生育が確認できることなどから、付近の環境について、①「周囲に樹木が生育する河道」→②「河道が埋没して水生植物が繁茂する湿地」→③「草地環境の拡大」→④「近世以降の水田化」の変遷が把握された。主に河道下層の上層との境目に近い部分から多量の流木とともに、漆容器として使われたとみられる小形の曲物や舟の一部と考えられる部材といった木製品や、全長約11mの伐採・加工痕のある樹木も出土しており、木材や水辺環境利用の様子がうかがわれる。旧河道やSX3において人々の活動痕跡が残るこの時期が①から②への変遷期にあたると考えられ、須恵器の大部分が佐渡小泊産で占められる土器の様相から、9世紀後半を中心とした時期と推定される。



大沢谷内遺跡11区全景（北西から） 背後は新津丘陵



大沢谷内遺跡11区縄文土器出土状況

(3) 史跡古津八幡山遺跡の保存活用事業

① 保存活用計画

新潟市教育委員会では、史跡古津八幡山遺跡を今後も適切に保存管理し、後世に確実に継承するとともに、より充実した活用や整備を実施していくことを目的として、平成27・28年度に「古津八幡山遺跡保存活用計画検討委員会」を開催し、今後の保存活用計画について検討を行った(表1)。

委員会での検討や指摘を踏まえ、平成29年3月に計画を策定し、『国史跡古津八幡山遺跡保存活用計画』として刊行した〔新潟市教育委員会2017〕。なお、弥生の丘展示館関係の統計データ(平成24～27年度)や、本計画策定にあたり実施したアンケート調査結果については、報告書中の附篇や付属資料の中に掲載した。

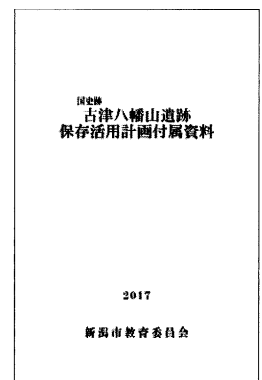
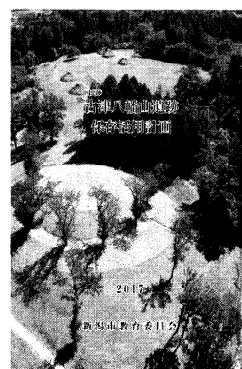
この計画は2027年度までの約10年間を対象としたもので、今後はこの計画に基づき史跡を適切に保存していくため、引き続き追加の確認調査を行い、遺跡の状況把握に努めるとともに、これまでに整備を行った歴史の広場について、引き続き適切な維持・管理を行っていく必要がある。加えて、ガイダンス施設である弥生の丘展示館が核となり、地域住民をはじめ、周辺施設や組織等とも連携をしながら、遺跡の特色を活かしたさらなる活用・整備を図っていく予定である。

表1 古津八幡山遺跡保存活用計画検討委員会の経過

年度	開催日	開催数	協議・検討事項
平成27年度	平成27年11月12日	第1回	委員長・副委員長の選出、保存活用計画の概要、古津八幡山遺跡のこれまでの経緯について
平成27年度	平成28年3月2日	第2回	報告書の目次構成案、本質的価値・構成要素、保存管理の基本理念・基本方針、地区区分及び地区別の現状変更等の取扱方針について
平成28年度	平成28年6月6日	第3回	第2回委員会での検討事項の確認、保存管理の現状と課題、活用・整備の基本理念・基本方針について
平成28年度	平成28年9月21日	第4回	第3回委員会での検討事項の確認、保存管理の方向性と方法、活用・整備の現状と課題・方向性と方法、運営・体制の整備の基本理念・基本方針・現状と課題・方向性と方法について
平成28年度	平成28年12月18日	第5回	第4回委員会での検討事項の確認、計画書全体について



古津八幡山遺跡保存活用計画検討委員会
(第1回 2015年11月12日)



『国史跡古津八幡山遺跡保存活用計画』(左)
及び『同保存活用計画附属資料』(右)

② 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場

弥生の丘展示館の平成28年度来館者数は46,182人である（表1）。平成27年度来館者数71,238人より、25,056人も減少したことになる。しかし、平成27年度は隣接する新津美術館による展覧会の影響により、平成26年度来館者数である36,365人よりも約2倍増加した年であり、平成28年度も平成26年度と比較すると、9,817人増加したこととなる。その要因としては、平成27年度同様に新津美術館による展覧会の影響が高いと考えられる。また、それ以外にも企画展の開催や豊富な体験学習や多彩なイベントによりリピーターが増加している。団体利用はこれまでと同じく小学校による利用が大半を占めている（表2）。春に新津丘陵に熊の姿が複数回目撃されたことによる影響も心配されたが、小学校の利用数は多少減少しているが大きく影響しなかった。しかし、全体的に団体の利用数は減少しているため、来年度以降の状況を注意する必要がある。

また、弥生の丘展示館脇に設置した計数機の数値は、弥生の丘展示館の来館者数よりも相当数低い。計数機の数値と史跡公園の利用者数は一致しないが、弥生の丘展示館来館者数より史跡公園利用者数が低いことは確実であり、今後史跡公園利用者が増加するように考えていく必要がある。

体験学習は、新たに始めたメニューはないが、例年同様に好評である。参加者数の傾向は、弥生の丘展示館の来館者数とほぼ同様である（表3）。しかし、団体利用での体験学習参加者数は平成27年度より750人増加していることから、団体利用者のうち体験学習を行う率が上がってきているといえる。

③ 活用事業・イベント

平成28年度に行ったイベントなどの一覧は表4のとおりである。体験学習（事前募集）では、例年行っている植物観察や稲作体験はリピーターも多く、大変好評である。また、複数回の日程で本格的な土器づくりを行う中級・上級弥生土器づくりやドングリの採取からアク抜き、試食までの一連の作業を体験する「ドングリを食べよう」などの新しい体験学習を行った。参加者は普段体験することができない、本格的な体験学習を行うことができ、大変熱心に体験に参加し、さらに興味や関心を寄せていた。

平成27年度に引き続き平成28年度も4回の企画展を開催した（表5）。近年発掘調査を行った舟戸遺跡についての展示や平成27年度から連続した弥生時代中期から後期にかけての展示、また、古環境と遺跡についての展示を行った。企画展に関連した講座・講演会も開催し、その内容をまとめた記録集を刊行した（新潟市文化財センター2017『平成28年度 史跡古津八幡山弥生の丘展示館 企画展関連講演会記録集』）。平成27年度と異なり講座・講演会の会場が文化財センターであったため、弥生の丘展示館から遠く離れており、展示と一緒に見ることができないなどの意見があり、今後会場については検討が必要である。

表1 平成28年度 弥生の丘展示館 来館者数

月	開館 日数	来館者数（人）					外カウンター
		個人	団体	全体	1日平均	累計	
4	26日	5,524	632	6,156	237	183,203	4,839
5	28日	11,952	331	12,283	439	195,486	6,760
6	28日	5,306	307	5,613	200	201,099	4,081
7	28日	2,986	105	3,091	110	204,190	1,801
8	27日	3,161	79	3,240	120	207,430	1,629
9	27日	2,642	799	3,441	127	210,871	1,960
10	27日	3,140	239	3,379	125	214,250	2,258
11	25日	1,951	189	2,140	86	216,390	1,546
12	22日	1,452	28	1,480	67	217,870	705
1	24日	1,987	0	1,987	83	219,857	1,386
2	24日	921	0	921	38	220,778	632
3	28日	2,438	13	2,451	88	223,229	1,904
合計/平均	314日	43,460	2,722	46,182	147		29,501

※外カウンターは弥生の丘展示館脇に設置した計数機の数値である。

表2 平成28年度 弥生の丘展示館 分類別団体利用数

分類名	団体利用数（件）	利用者数（人）
保育施設・幼稚園	1	36
小学校	30	1,962
中学校	3	47
大学	3	87
その他学校	1	32
動く市政教室（個人）	2	34
動く市政教室（団体）	3	68
その他市企画関係	1	40
市関係	2	88
行政・議会関係	1	35
公民館関係	1	18
自治会・町内会など地域コミュニティ関係	6	121
各種サークルなど	4	54
企業企画ツアーなど	2	39
企業	1	20
福祉施設	1	13
その他	2	28
合 計	64	2,722

表3 平成28年度 弥生の丘展示館 体験学習参加者数

月	体験学習メニュー		参加者数(人)				
	屋内体験(有料)	屋外体験(無料)	個人	団体	全体	1日平均	累計
4	土器・土偶・土笛・土鈴づくり、木の枝の鉛筆づくり	石斧体験	518	338	856	33	31,431
5	弥生染め、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり・木の枝の鉛筆づくり	弓矢体験	1,721	169	1,890	68	33,321
6	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	火起こし体験	1,351	673	2,024	72	35,345
7	鋳造体験(銅鐸・銅鏡)、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり 木の枝の鉛筆づくり	弓矢体験	1,097	68	1,165	42	36,510
8	弥生染め、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	火起こし体験	868	179	1,047	39	37,557
9	鋳造体験(銅鐸・銅鏡)、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	石斧体験	182	634	816	30	38,373
10	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	弓矢体験	299	308	607	22	38,980
11	鋳造体験(銅鐸・銅鏡)、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	石斧体験	243	248	491	20	39,471
12	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	火起こし体験	51	63	114	5	39,585
1	鋳造体験(銅鐸・銅鏡)、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	里山のクラフトづくり	150	0	150	6	39,735
2	アングリ編み、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	里山のクラフトづくり	120	0	120	5	39,855
3	アングリ編み、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	火起こし体験	313	7	320	11	40,175
合 計/平 均			6,913	2,687	9,600	31	

表4 平成28年度 弥生の丘展示館 イベント・体験学習(事前募集)一覧

年 月 日	内 容	参加者数 (人)	年 月 日	内 容	参加者数 (人)
2016/4/24(日)	文化財センターボランティア養成講座3	8	2016/9/25(日)	植物観察3(秋)	23
2016/4/29(金)	植物観察1(春)	19	2016/10/2(日)	まいぶん祭り	1,163
2016/5/8(日)	発掘体験1	9	2016/10/9(日)	ドングリを食べよう1	15
2016/5/15(日)	弥生の稲作体験1(田起こし・田植え)	71	2016/11/6(日)	弥生の稲作体験6 (脱穀・舂攪り・試食体験)	27
2016/5/22(日)	上級昆虫標本づくり1	13	2016/11/13(日)	ドングリを食べよう2	11
2016/6/4(土)	弥生の稲作体験2(雑穀植付・草取り)	18	2016/12/4(日)	稲わらリースづくり	28
2016/6/5(日)	第15回にいつ花ふるフェスタ	1,578	2016/12/11(日)	ドングリを食べよう3	12
2016/6/12(日)	植物観察2(初夏)	31	2016/12/18(日)	土器カレンダーづくり	12
2016/6/19(日)	上級昆虫標本づくり2	15	2016/12/25(日)	冬の自然観察1	16
2016/7/2(土)	弥生の稲作体験3(草取り)	18	2017/1/8(日)	弥生の餅つき	420
2016/7/3(日)	中級弥生土器づくり1	10	2017/1/15(日)	巨大勾玉づくり	9
2016/7/10(日)	中級弥生土器づくり2	9	2017/1/22(日)	冬の自然観察2	8
2016/7/17(日)	中級弥生土器づくり3	8	2017/1/29(日)	アングリ編み教室	4
2016/7/24(日)	発掘体験2	30	2017/2/5(日)	上級弥生土器づくり1	10
2016/7/30(土)	一般昆虫観察会及び上級昆虫標本づくり3	32	2017/2/12(日)	上級弥生土器づくり2	10
2016/7/31(日)	上級昆虫標本づくり3	15	2017/2/19(日)	上級弥生土器づくり3	7
2016/8/7(日)	弥生の稲作体験4(草取り)	21	2017/2/26(日)	上級弥生土器づくり4	6
2016/8/21(日)	上級昆虫標本づくり4	9	2017/3/19(日)	石製模造品づくり	13
2016/9/11(日)	弥生の稲作体験5(稲刈り)	63			
合 計					3,771

表5 平成28年度 弥生の丘展示館 企画展及び企画展関連イベント一覧

年 月 日	内 容	参加者数(人)
2016/4/12(火)～7/3(日)	企画展1 「舟戸遺跡を解明する」	
2016/5/29(日)	企画展1 関連講座「舟戸遺跡と新津丘陵周辺の歴史」・「古津八幡山古墳がつくられたところの新潟」	47
2016/5/1(日)	企画展1 展示解説	5
2016/7/12(火)～9/25(日)	企画展2 「邪馬台国の時代3 古津八幡山の頃の信濃川右岸の世界」	
2016/9/18(日)	企画展2 関連講演会「『三国志』に書かれた「倭国乱」の意味するところ —韓国・日本の環濠集落と高地性集落—	108
2016/7/24(日)	企画展2 展示解説	11
2016/10/4(火)～12/18(日)	企画展3 「遺跡、古環境から見た古津八幡山古墳の時代」	
2016/10/23(日)	企画展3 関連講演会「越後平野はどうしてできたか—古墳時代の越後平野を推理する—」	72
2016/10/16(日)	企画展3 展示解説	10
2017/1/4(水)～3/26(日)	企画展4 「邪馬台国の時代4 古津八幡山の頃の信濃川左岸の世界—六地山遺跡里帰り展—」	
2017/3/5(日)	企画展4 関連講演会「信濃川をめぐる弥生時代の越後と信濃の交流」	54
2017/2/19(日)	企画展4 展示解説	15
合 計		322

※関連講座・講演会是新潟市文化財センターで行った。



上級弥生土器づくり



企画展3 関連講演会

(4) 文化財センター活用事業

文化財センターでは開館中であればいつでも見学できる展示室のほか、歴史に関する講座・イベント等を開催している。団体利用もあり、特に小学校社会科において、3学年の「むかしのくらし」、6学年の「日本の歴史」単元で利用いただいている。平成28年度はのべ12,630名の来館者があった（表1）。

① 文化財センター

(ア) 学校利用

小学校では26校のべ2,025人の利用があった。昨年度から比べて1校増加した。6学年では展示室見学のほか火起こしや土偶づくり・勾玉づくりなどの体験メニューを行う。3学年では民具を実際に使用する体験や、旧武田家住宅の囲炉裏で語り部から昔語りを聞く体験を行う。中学校も総合学習や職場体験での利用がある。

(イ) 企画展

平成27年度に引き続き、年4回の企画展を開催した（表2）。

(ウ) 講座・イベント等

市民の皆様は歴史を身近に感じていただくための講座やイベントを開催した（表3）。

表1 平成28年度 文化財センター来館者数・体験メニュー参加者数

月	開館日数	来館者数			体験メニュー参加者数		
		個人	団体	計	個人	団体	計
4	26日	722	367	1,089	80	630	710
5	25日	908	303	1,211	156	588	744
6	26日	767	139	906	28	0	28
7	27日	1,021	229	1,250	228	307	535
8	25日	1,003	70	1,073	467	30	497
9	25日	756	578	1,334	45	462	507
10	26日	920	394	1,314	32	318	350
11	24日	731	420	1,151	52	62	114
12	22日	523	198	721	64	11	75
1	24日	689	175	864	123	0	123
2	23日	658	0	658	89	0	89
3	27日	939	120	1,059	36	33	69
合計	300日	9,637	2,993	12,630	1,400	2,441	3,841

表2 平成28年度 企画展一覧

会期	企画展タイトル
平成28年4月12日（火） ～平成28年7月18日（月・祝）	水辺に栄えた縄文社会
平成28年7月26日（火） ～平成28年10月10日（月・祝）	北区の古墳時代
平成28年10月18日（火） ～平成29年1月9日（月・祝）	古いとまじない—今に伝わる中世の習俗—
平成29年1月17日（火） ～平成29年3月26日（日）	新潟市の遺跡から見える律令時代 —8・9世紀の新潟市—

表3 平成28年度 主催講座・イベント一覧

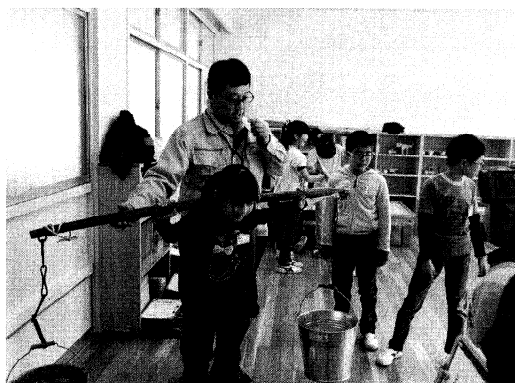
開催日	曜日	内 容	人数 (人)
平成28年 5月14日	(土)	民俗講座「旅人のみた越後七不思議」	38
5月22日	(日)	企画展関連講演会「縄文土器にみる角田山麓縄文遺跡群の日本海交流」	58
6月4日～18日	(土)	大人の土器づくり「笹山前遺跡の縄文土器深鉢」全3回	11
7月3日	(日)	黒埼の民具と民話を楽しむ会「七夕語り」	64
7月31日	(日)	仕事体験「キミも考古学者！」	10
8月7日	(日)	体験「ドキドキ！土器づくり」	35
8月27日	(土)	企画展関連講座「遺跡からみた北区の古墳時代」	45
9月3日	(土)	民俗講座「新潟のタノカミサマの行事について」	20
10月2日	(日)	黒埼の民具とお茶を楽しむ会	72
11月3日	(木)	企画展関連講演会「中世越後の信仰生活」	44
11月5日～12月3日	(土)	大人の土器づくり 「新潟市大沢遺跡の火焰型土器」全5回	10
12月15・16・17日	(木) (金) (土)	体験「高機を使って裂き織」	12
平成29年 1月29日	(日)	平成28年度遺跡発掘調査速報会 会場：新潟市民プラザ	184
3月12日	(日)	企画展関連講演会「律令時代の新潟市域」	70

② 現地説明会

発掘調査の成果を公開するための現地説明会を3遺跡で行い、304名の参加があった（表4）。特に笹木遺跡では、江南区での発掘調査が4年ぶりということもあり、地元の関心が高く多くの来場者があった。

表4 現地説明会一覧表

遺 跡 名	開 催 日	参加者数 (人)
笹木遺跡（江南区）	平成28年 9月17日（土）	110
大沢谷内遺跡（秋葉区）	平成28年10月1日（土）	123
細池寺道上遺跡（秋葉区）	平成28年10月8日（土）	71



3 学年小学校出前授業の様子



笹木遺跡現地説明会

(5) 牡丹山諏訪神社古墳に関する報告（平成28年度の経緯）

① 牡丹山諏訪神社古墳について

新潟市東区牡丹山3丁目106-1ほかの諏訪神社境内にある牡丹山諏訪神社古墳は、砂丘上（阿賀野川以東の新砂丘Ⅱ-4列に相当）に立地し、現在の標高は約0.5mを測る。表面採集された遺物及び平成26・27年度に牡丹山諏訪神社古墳発掘調査団による学術目的の発掘調査の成果（円筒埴輪・須恵器高杯片の出土・周濠の検出など）から、現在拝殿が立地する地点を中心に5世紀前半に造営された円墳であることがほぼ確実となった。平成26年度の試掘調査後、埋蔵文化財包蔵地として周知化された。以下、平成28年度の発掘調査前後の経緯について簡単に記す。

② 平成28年度の調査 ～牡丹山諏訪神社古墳発掘調査団による第3次発掘調査～

第1次発掘調査（平成26年度）・第2次発掘調査（平成27年度）の成果を踏まえ、墳丘にめぐらせた埴輪列の原位置を特定し、埋葬施設の位置と構造を詳細に把握することを目指して5か所のトレンチ調査が実施された。

調査は平成28年9月11日～23日に実施した。9月18日に現地説明会が行われた。あいにくの天気であったが多くの市民が参加した。

③ 調査結果は『新潟大学考古学研究室 調査研究報告書17』に詳しい。以下主な結果を抜粋報告する。

ア 2次調査時に検出した埴頂部の粘土集積は現代のものである可能性も出てきた。

イ 2次調査時に土製玉類が出土した埴頂部東側トレンチでは、現代の土坑から鉄製甲（かぶと）の断片が出土した。副葬品と考えられる。南魚沼市飯綱山10号墳出土の2点の短甲に次ぐ3例目であり、技術的に飯綱山10号墳に先行することから、新潟県内最古の甲片であるとともに日本列島最北の古墳時代甲冑の出土例となった。

ウ 墳丘の南側に造り出しの付くことが明らかとなった。

エ 埴頂及び埴頂付近のトレンチから赤色塗彩の土師器埴片が出土した。また2次調査に続き赤色塗彩された土製勾玉も2点出土した。葬送儀礼に伴う祭祀に使用したものと見られる。



発掘調査の様子



埴頂部での発掘調査の様子

Ⅱ 文化財調査報告

100年前の井戸掘り達の息遣い

～旧新津油田金津鉾場木工所文書「油井断面図」が伝える世界～

新潟大学理学部 栗田 裕司

1. はじめに

新潟市が平成26～28年度に行った「旧新津油田金津鉾場総合調査」では、旧新津油田のなかで、油田地帯のもっとも南部に位置し、緑の丘陵内にかつての遺構がよく残る金津地域が対象となった（文献1）。その結果、日本屈指の歴史と累計産油量を誇るこの油田の開発の来歴を後世に伝える、多くの貴重な資料が集積された。このうち、「金津鉾場木工所」と呼ばれるかつての事務所跡に所在した文書群（「金津鉾場木工所文書」）に含まれていた「油井断面図」の発見は、筆者には大きな驚きであった。「油井断面図」は、かっちりした図面や、短い文章で苦労や成功を語るなかに、当時の技術者達の息遣いが想像できる、たいへん興味深い資料であると筆者は思う。本稿では、この資料が、かつて油田で働いた技術者たちの姿をどのように伝えているか、その意義とおもしろさを紹介していこう。

2. 「油井断面図」の概要

「油井断面図」は、各坑井ごとに、1枚の短冊状の紙に、その坑井の、主として地質学上の特徴と作業経緯を図表と文章でまとめたもので、いわば「坑井の基本台帳もしくは戸籍簿」のようなものである。新潟市が作成した「中野家文書目録（木工所）」（未公開）によると、金津鉾場木工所文書の総点数は3,031点で、そのうち「坑井断面図」もしくは「油井断面図」と銘打たれた文書の総数は、469点にのぼる。本稿では、「金津C式15号井」、「金津機械式20号井」、「同22号井」の3つの坑井を例として取り上げる（図1、2、3）。このうち、「金津C式15号井」の油井断面図（図1）は、「旧新津油田金津鉾場総合調査」報告書（文献1）の口絵にて掲載されたものである。

図1、2、3に見るように、油井断面図の基本は、表面の上端に坑井の緒元が表形式でまとめられているヘッダー部分と、その下に続く「地質柱状図」から成る。地質柱状図とは、縦軸を井戸の深度とし、掘削中に確認された地下の岩石の種類や原油の徴候などを深度ごとに記録したもので、出現した岩石の種類に応じて厚さと塗色で図示されている部分と、その右側の深度と岩石種を文字で記述した部分から成る。塗色の凡例が柱状図の右側に示されていることが多い。図1の例では、深度方向の縮尺は1/1,200と記されている。これらの記述を基本とし、加えて、紙面の下部や裏側に、井戸の位置を示す見取り図（平面の地図）や、文章による記述がみられるものもある。

3. 現代の石油鉾業との比較

現代の石油鉾業においても、金津の「油井断面図」とほとんど同等なものが「坑井柱状図」と呼ばれ、あらゆる井戸ごとに掘削後のデータ整理時に作成され、石油鉾業の最も基本的な資料として活用されている（当然それは社外秘扱いである）。日本の石油会社の場合、現行で作成される坑井柱状図は、深度方向の縮尺が1/500のものと1/2,000の2種類である。このうち、1/2,000のものは体裁が金津の「油井断面図」とよく似ており、縮尺も類似していることから、これが伝統的な記録方法であって、後日に

1/500のものも作成されるようになったと受け止められる。金津の「油井断面図」を筆者が最初に見たときに感じた驚きの第一は、現代の石油鉱業における1/2,000の坑井柱状図との共通性の高さであった。「100年前の技術者も、今とまったく同じことをしていたのだ！」という驚きである。

4. 地質柱状図

まず、地質柱状図のつくりを見てみよう。

深度の記述単位と細かさ（分解能、どれだけ細かい間隔で地質を記録しているか）に注目すると、C式15号井では単位がメートルで、最小の記述間隔は10センチメートルである。機械式20号井では単位が間・尺・寸で、最小の記述間隔は1寸（約3センチメートル）であり、機械式22号井では同じく単位が間・尺・寸であるが、こちらの最小の記述間隔は1尺（約30センチメートル）となっている。

地質（岩石名）の記述で使われている用語は、次のようなものである。（ ）内に現代の地質学で使われている用語との対応を推察した。

粘土（粘土岩、シルト岩、泥岩）、小砂（細粒砂岩）、中砂（中粒砂岩）、荒砂（粗粒・極粗粒砂岩）、小砂利（細礫岩）、砂利（礫岩）、玉石／石（掘削経緯の文脈からして火山岩）

また、掘削中にみられた原油の徴候あるいは出水層の存在は、次のような言葉で表現されている。

油砂、含油小砂、含油荒砂、中目油砂、小目油砂、油量約一石、油気ヲ含ム、出水ス

これらの表現は、現代の地質学で用いられている表現と意味はほとんど変わらない。また、砂岩以外の岩石の記載には色調も付記されており、観察のていねいさがうかがえる。

ちなみに図の欄外に印刷された地質凡例は、次のように区分されている。

頁岩、粘土、砂岩、砂、砂交粘土、粘土交砂、礫、石油、油気、瓦斯、水、※火山岩が出現したとされる機械式20号井の場合は、使われなかった「頁岩」を取り消し線で消して、代わりに火山岩を示す意味で「石」の凡例が与えられている。凡例には塗色がなされ、柱状図との整合性を示している。

全体として地質の記述は、塗色のていねいさや調査間隔の細かさも含め、繊細、緻密に観察がなされ、また記録されていると感じられる。私の第二の驚きは、作図や塗色のこまやかさ、あるいは岩質の記録間隔のこまかさなど、記録の「精緻さ」を大切にした技術者の「こだわりの深さ」にあった。このこだわりは、職業への愛情と表裏をなしていると思えてならないものである。

5. 作業経緯の記述

油井断面図のもうひとつのみどころは、掘削に関連した作業経緯の記述にある。それは主に用紙の余白や裏面に文章で書かれているが、すでに地質柱状図のなかにも、これに関連した用語が散在する。「掘止」は、“その深度で目的を達したと（あるいはそれ以上の掘削継続が技術的または経済的に非現実的だと）判断し、掘削を終了した”の意味で、この用語は現代でも使用される。「浚進」は、“いったん掘った部分が土砂等で埋まってしまっているので、埋没部分を再度掘り上げながら、もともと掘った深度まで進んでいった”の意味で、現代ではもっと単純に「浚い（さらい）」と称される。「掘下」は、“いったん掘止めた井戸から、さらに下位の地層を狙って掘り増す”ことで、現代では「増掘」である。

そして、地質柱状図の欄外や用紙の裏面に書かれた掘削作業を記録した文章には、当時の苦労を如実に忍ばせる、なかなかドラマチックなものが見られる。以下に、例示した3坑井の文章記述を順次検討してみよう。文末の資料1～3に、各坑井の文章部分を採録したものと、その解釈文を示す。読解の便を考慮して、間・尺・寸で書かれた深度には換算したメートルを、石で書かれた容積には換算したキロ

リットルを、それぞれ（ ）内に付記した。

(1) 金津C式15号井

金津C式15号井の文章記載は、前半と後半の2部構成になっており、いずれも改修作業の内容が記されている。井戸の「改修」とは、生産性が低くなった（産出量が減少した）井戸や、鉄管の腐食が進んだ井戸などを対象に、鉄管の入れ替えや、埋まった土砂の掻きだし（浚渫、さらい）などを施して、生産性を維持・向上させることであって、現代の石油坑井でも（当時とは内容がだいぶ異なるものの）時おり行われる作業である。C式15号井の最初の掘削は、ヘッダー部分の記述では、明治42（1909）年4月に終了している。

文章記載の前半は、掘削から17年後の大正15（1926）年5月から6月にかけて実施されたとと思われる改修作業の記述である。この約40日間の作業では、まず井戸の底の部分8m余りを埋没させていた土砂の浚いから始めたところ、かつて脱落し井戸内に残されていたままの鉄管を引き揚げる必要が生じたが、それを引き揚げるための器具をまた脱落させて落としてしまった、というトラブルに見舞われ、それを対処したあとでようやく新しいパイプを油層部分に差し込んで生産を再開できた、ということが書かれている。

文章記載の後半は、それからさらに4年後の昭和5（1930）年4月に実施された掘下（増掘）の記録である。この時は、枯渇気味の井戸を浚っただけでなく、もっと下位の地層まで新たな掘り増しがなされた。まず行われた前回の作業で井戸内に設置した鉄管の抜き取りは順調に進み、浚いも終了した時点で新たな掘削を開始し、12.5mを掘り進んで、結果的に1日あたりの生産量が0.03kLから0.40kLに、10倍以上に増したと記されている。これは全体としてきわめて順調な作業で、新たな投資に見合う成果も得られたであろう、明るい記事であると言える。記述の最後の、10倍以上の産油量になったことを示す2行の文字が、誇らしげに見えてくる。

なおこの井戸の油井断面図のヘッダー部分には、「鑿手」（掘削手）の欄があらかじめ印刷されており、井戸掘り（の親方層）は技術的責任者として記録に名前を残すまでにリスペクトされていたと思われるが、本坑井では残念ながら空欄である。

(2) 金津機械式20号井

金津機械式20号井および22号井の2つの井戸は、どちらも明治41（1908）年2月1日付で「豊鉱石油会社」という会社から「引き継いだ」と記述されている。この2件の断面図の特徴のひとつは、ヘッダー部分に経費の金額が書かれている点である。機械式20号井の場合、消耗品代を除く「工賃」が146円840銭であり、動員した延人数が444人と書かれているので、これで当時の職人層の給料がわかるのかもしれない。

この機械式20号井の油井断面図に付された文章によると、引き継ぎから6年半後の大正3（1914）年12月に、減退した生産を回復する試みとして増し掘りがなされた。結果的に約40m新たに掘り進んだところで火山岩が出現し、これが非常に硬く掘削困難であり、また当時の産油は砂岩層からなされていて火山岩層から産油する見込みはほとんどないと考えられていたので、増し掘りをそこで中止し、引き続き廃坑（井戸の廃止作業）をすることになった。なおこの火山岩は、断面図の地質記載では「黒色石」と書かれているので、白玉の滝の下部にみるような黒色の玄武岩層であったと思われる。この一連の記述で、廃坑する際は、坑内に設置し井戸を保護していた鉄管類をできるだけ全部引き揚げて回収するのが通例であったことがわかる。これはパイプの再利用のためである。結果的にこの井戸では、3重に入っていた大中小それぞれの径の鉄管のうち2本は順調に回収できたが、最後の一本は井戸内に引っかかって引き揚げが困難であり（その理由を「井戸の側壁からの圧迫（せりだし）」であるとしている）、全部の回収をあきらめて、管の途中の2か所で切断し、引き揚げをしたが、その途上で不本意にもネジが戻ってはずれてしまってさらに引き揚げられなかった部分が生じた、という。火山岩が出現して掘削困難になり当初の目論見がはずれたことや、廃坑時に抜けない鉄管があり、しかも途中で落としてし

まったことなどの記述には、冷静な筆致にかえて技術者の無念さが感じられる。

(3) 金津機械式22号井

機械式22号井の油井断面図に付された文章は、引き継ぎから4年後の明治45（1914）年3月に、生産量がかなり減退したので、改修もなしに廃坑することを決定し、その廃坑作業の記録となっている。この井戸には4重に鉄管が挿入されていたが、3本まで引き揚げたあとの4本目の引き揚げに難渋し、いろいろ手間をかけて引き揚げを試みたがかなわず、最終的に途中でネジをもどして上部だけをはずして回収した、とある。「頑トシテ動かズ到底引揚ニ見込ナキニ依リ已不得ズ」という記述に、井戸掘りの無念さがよく表れている。

6. 油井断面図に感じる「鉄のにおい」と人々の活躍ぶり

今回例示した3坑井は、いずれも明治期に掘削されたもので、油井断面図はその掘削時に得られた地質の記録であるとともに、明治末から昭和初期までの間にその井戸に対して行われた改修や廃坑作業の様子を主に文章で記録したものとなっている。これはほぼ旧新津油田の全盛期の前後に相当し、また、機械式20号井の増し掘りが行われた大正3（1914）年は、日本が中国に進出するきっかけとなった第一次世界大戦勃発の前年であり、C式15号井の増し掘りが行われた昭和5（1930）年は満州事変の前年である。そういう時代背景のなかで、旧新津油田の維持・増産を志した技術者たちが残した記録が、100年を越えてこのように端正かつ鮮明な形で残っていることに、筆者はなにより感動を覚える。記録は貴重なものとして、誰も捨てなかったのである。そして、地質柱状図のきわめていねいな清書・塗色からは、正確に事実を残そうという気概がありありとわかる。

今回検討した例では、文章部分は、掘削時の記録ではなく、その後年月を経ての改修・廃坑の記録であった。これによって、それぞれの井戸はいつもメンテナンスの対象として長期に面倒をみられていたことがわかる。この改修や廃坑の作業過程を記録した文章は、工程をよく表現しており、短いながらも、当時何が起こったか、どのように対処したかがよく伝わる文章である。つまり、これら文章による記録の部分は、油田開発における地質上の側面、つまり「どの地層から原油がどのくらいでるか」という側面よりも、「井戸という工作物をどのように扱ったのか」という工学的側面の内容が主であるといえる。例示した3坑井で見える限り、彼らが特に難渋し記述に多くの文字数を割いているのは、鉄管の坑内遺留物の処置や、鉄管の引き揚げにまつわるトラブルである点に、特徴がある。そのような場合の対処工程の基本は現代の石油産業とまったく同じである。石油井戸の掘削や対処・始末は、未知の地下の地層の世界を相手にすると同時に、「鉄を扱う」ことが色濃い仕事であることがよくわかる。21世紀の人が遺構として旧新津油田を訪れる際には、「鉄のにおい」を通して、100年前の彼らは、地層とも、鉄ともたたかっていたのだと、五感で感じとってもらえたらいいのではないかと思う。

なお「金津鉦場木工所文書」には、「油井断面図」以外に「浚渫日誌」というものも多数残されていることが分かっている。筆者はそれを未見であるが、題名から察するに、井戸を扱う技術者達は、生産性の維持のために、絶えず既存の井戸の「浚い」を日常作業として繰り返し行っており、その作業専門の日誌が書かれていたことを示す。当時の油田を操業することは、掘削して終わり、ではなくて、後日も不断のメンテナンスを必要としていたことがよく伝わる資料といえる。

7. 日本の石油開発史との関連で

日本の100年以上にわたる近代石油開発史のなかで、おそらく最も突出したできごとは、太平洋戦争（1941～1945）の遂行にともない、東南アジア地域の当時イギリス領・オランダ領であった油田地帯において、日本の占領とまったく同時に大量の日本の石油技術者が現地に送り込まれ、軍務として現地の油田の操業に従事したことである（文献2、3）。当時徴用された石油関係者は合計5,000人以上で、そ

のうち1,600人以上が帰国前に命を落としたとされる（文献2）。

その過程で、当時の東南アジア地域で欧米の大石油資本が駆使していた最先端の油田探査・開発技術を、日本の技術者が独力で短い期間によく消化して応用し、結果的に戦後の日本の開発技術の進歩に甚大な寄与をしたとされる点が、歴史の一側面として強調されてきた（文献2）。柴宮 博氏の回想録（文献3）には、現代の私たちの想像を絶する苦労に満ちた現地での体験の上にも、（油田を放棄した外国人技術者が無秩序に残置していった資料を見て）「…これは正しく宝の山だったのである。若い技術者達は、狂喜して夢中になってこの新しい技術に取り組んだ」との記述がみられる。ほとんどが今は無名の先達たちは、当時の日本の技術が最先端のものからいかに遅れていたかを知ると同時に、きわめて迅速にそれを吸収し、比較的短い期間に現地の油田の増産に成功したのであるが、それを可能にした当時の技術者達の優秀さが、おそらく旧新津油田を含む新潟・秋田両県の油田での戦前の70年間以上にわたる経験の深さに基盤を持つだろうことは容易に想像できる。

「金津鉾場木工所文書」の「油井断面図」をはじめとする金津の井戸ごとの技術的経緯を詳細に記録した資料は、大正～昭和初期に新津で行われていた掘削・改修などの作業の工程を具体的に伝え、戦中～戦後の日本の石油開発産業の技術的発展の基盤がどこにあったかをよく伝えるものと言える。

8. むすび

多くの文化財あるいは遺構・遺跡といったものは、概ねそのときどきの時代に政治的・経済的な力があった人物の支配・影響あるいは指導を強力に体现するものであろう。社寺しかり、城郭しかり、庭園しかり。しかし旧新津油田のような近代産業遺産は、やや違う側面を持っていることを、ここで紹介したような地味な技術的資料は物語っているように思う。近代産業の推進にはもちろん中心となる人物群がおられたであろうが、その活動を産業として成り立たせた背景の両輪は、近代科学技術の発展と、多くの無名の市民・庶民の労働を通じての主体的参加であると思う。そうした庶民の参加を可能にしたのは、社会制度の変革であって、その一環に、学校制度の開始による教育の普及もあることは疑いない。また、近代産業は貿易という国際関係にも深く結びついていて、地理的には新潟県の一角にすぎない旧新津油田も、社会的には世界史の動きと無縁ではいられなかっただろう。

旧新津油田が市民の財産として活用されていくときに、とくに若者や子供たちをして、社会・世界の歴史や、教育をうけることの意味にまでうっすらと関心が向くようなものであってほしい、旧新津油田をきっかけに、「昔はどのような時代だったのだろうか？」という素朴な疑問を抱いて、いま自分が生きる社会の来歴に興味をもってもらえたらな、というのが、「油井断面図」を見て私が感じたことである。

〔文献〕

- 1) 新潟市、旧新津油田金津鉾場総合調査報告書。2017年、267p.
- 2) 武井友也、戦時下の事業推進。1998年、「日本の石油と天然ガス」出版委員会編、「日本の石油と天然ガス」、天然ガス鉱業会刊、52-58.
- 3) 柴宮 博、石油鉱業技術者の南方徴用。1998年、同上、357-370.

資料 油井断面図の文面採録と解説 図1【金津鉱場 金津 C式 第15号井】

油井断面 1/1200

油井番號 No.15

油田名 金津

掘鑿種別 C式

鉱区番號 843

開坑 明治42-1-23

成功 (※明治42-) 4-9

海面上ノ高 113.M-

水止間数 8" DP 167. M 1

鑿手 (※掘削手) (※空欄)

<左欄>遮水管・仕上げ管の状況

8-5/8 CP 167.1m

5-5/8 CC 183.6m

4-1/2" CC 48.8m (※下1/3は仕上げのための孔明管)

<地質記載> (油層部分)

201.8 砂交り粘土

203.6 油砂 (※朱文字)

207.9 青色粘土

212.9 堀止

215.1 中目油砂

216.6 小目油砂

225.-m 浚進

<文章記載>

15-5-16 15-6-25

埋底204.3mヨリ浚渫ニ着手シタルニ2"蜂巢管墜落シアリ坑内ニ傾斜、之引揚げ容易ナラズ依リテ肌浚シ3-1/2"パイプスウェジ使用中、坑内ニスエジ残留シ来タリ之レヲ採揚中、4"投込管24.m20ツールスニ拘(※)リ来リ其后浚進ガ208.m6ニ達シ4-1/4"CP24.m-下部ニ3"管孔明6.m2接続投込ミ2"TP23.m8降下採油ニ着手ス然レドモ4"残留管頭204.m4ノ箇所ニアリ(※手記文字「迫」は誤字と解釈)

採油減退セルヲ以ッテ昭和五年四月四日ヨリ浚渫ニ着手ス
4-1/4" C及3" T(※Cに上書き)P(投込管)全部
引揚后 4-1/4" C下部へ穴欠管
12.4mヲ附シ元肌(212.5m)
迄浚進シ尚下部有望ナルニ
ヨリ225.m - 迄掘下試油
中ノ処出砂減ズルヲ以テ4-1/4"
C 174.m - ヨリ抜管(管尻222.8m)
ノ上7月18日ヨリチュービング採油中.

4-1/4" C
48.8m (内穴欠管下部12.4m)

掘下前採油量KL 0.03
現在採油量KL 0.40

【文章記載の解説】

(前半部分：おそらく大正15年5月16日～6月25日の間に行われた、1回目の改修作業の記録)

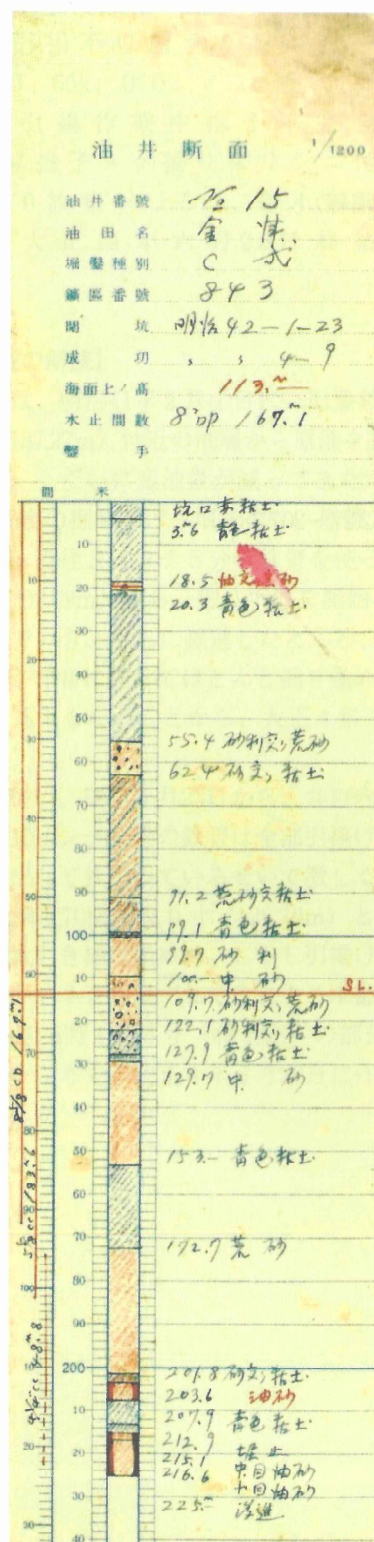
(改修を始めてみると、本来の井戸の深さ(212.9m)よりも浅い深度204.3m地点から、本来の井戸の最深部にある油層の部分が土砂で埋まっていることがわかった。なので、その深度)から浚い(土砂を掻きだすこと)に着手した。そうしたところ、直径2インチの「蜂巢管」というものが、脱落した状態で坑内に斜めの姿勢で遺留されていた。

これを引き揚げようとしたが、なかなか引き揚げることができないので、そこ(肌=その時点での坑内)から浚うために、直径3インチ半の「パイプスウェッジ」という、金属を破壊する道具を井戸に下げて使っていたところ、こんどはそのスウェッジを坑内に落としてしまった。これを引き揚げようと採揚作業をしていると、直径4インチの「投込管」(長さ24.20m)の引揚用具(ツールズ)にかかって来た(引揚げできた)。

その後、浚いが深度208.6mに達したところで、長さ24.0m・直径4インチ2分のパイプ(CP)の下部に直径3インチの孔明管(原油を吸い出すための、ザルのように細かい穴が開いている鉄管)を6.2m接続したものを井戸に投入した。その上で長さ23.8m・直径2インチのチュービングパイプ(TP)を井戸に差し込み、採油を開始した。しかし(その時点で)、直径4インチのパイプが井戸の底に残留したままで、その管の先端(管頭)は、深度204.4mの位置にある。

(後半部分：昭和5年の2回目の改修作業の記録)

採油量が減退したので、昭和5年4月4日から、井戸の底の油層部分の浚いを開始した。まず、直径4インチ2分のパイプ(CP)とその下部に付けた直径3インチの孔明管から成る投込管を全部引き揚げた。そのあと、直径4インチ2分のパイプの先端に長さ12.4mの孔明管をつけ、元々の最終深度(元肌)であった深度212.5mまで浚いを進めて終了した。さらにその下位層が有望と考えたので、深度225.0mまで、増し掘りを行った。試油(試験的な採油)を行うと、原油と一緒に崩れて出てくる地層の砂分が順調に減って生産が安定したので、(浚い・掘削に用いた)直径4インチ2分のパイプを深度174.0mのところで切り離して(切断もしくはネジのより戻しによる)、そこから上は井戸から抜き取って(抜管して)地上に回収した。この時、最終的に井戸の中に設置した鉄管の先端位置(管尻)は、深度222.8mである。7月18日から、チュービングパイプを用いて採油している。



15-5-16. 15-6-25
 埋 底 204.3 砂泥層=着床層
 2' 蟻巣管墜落IP7 坑内=傾斜
 2' 引揚ゲ容易+ラズ依ッテ肌波
 2' 3/4"ハロワースウェル使用中
 坑内=220 残高1車52之
 操揚中. 4' 投込管 24.20
 ワ-ル入=廻り来, 其右泥連か
 208.6=1' 4/4" CP 24.~
 下部=3' 管穴明 6.2 接続
 投込: 2' TP 23.8 降下接油
 =着床層 然レモ 4' 残高管
 頭. 204.4 箇所=IP7
 操油減退セルヲ以テ 昭和
 年四月四日の泥層=着床層
 4' 及 39p (投込管) 全部
 引揚右 4' 下部へ穴短管
 12.47 附セル肌 (212.5)
 近 泥連シ 下部有望ル
 2' 22.5- 近 堀下 試油
 中 1' 22 出砂減セルヲ以テ 4' 4"
 C 174- 2' 投管 (管見 222.8)
 1上 7月 1800, 420.9 操油中
 4' 4" 48.8 (穴短管下部 12.4)
 堀下の操油量 0.03
 現在 操油量 0.40

油井断面図 C15号井 (左: 表上部 右: 表下部) (中野家文書/市撮影)

図1 金津C式15号井の油井断面図. 左: 表上部 右: 表下部.
 文献1の口絵より転載. (中野家文書)

資料 油井断面図の文面採録と解説 図2【金津鉱場 金津 機械 第20号井】

新潟縣採掘登録第586號

坑井所在地 金津村大字金津小字東又

地主 --

作業指令書 大正4年4月21日No 292 (朱二重取消線)

起工 大正3年12月23日

竣工 --

工數

延日數 54日1時

延人数 444人

掘削間數 134間0尺2寸 (243.70m)

掘下 20k、3'2

油層及其厚 103k、0'0ヨリ 114k、0'2迄 (182.27~207.33m)

厚サ 11k、0'2 (20.06m)

掘止當時壹昼夜出油量 -石-斗

改算ボーメー -度-分

櫓(新、古、板、角、間) 古 5k丸太櫓

油井価額

基品額計 -

掘鑿費計 150円840

合計 150円840

掘鑿費内訳

工賃 146円520

燃料費 -

消耗費 4円320

修繕費 -

地元費 -

本坑井ハ明治四拾壹年貳月壹日
旧豊鉱会社ヨリ引継ギ以来深度
113k、0'0内外ニ於ケル油層採取シ来
リシモ漸次減油ナシタルニ付下層油
層探究ニ目的ニテ10k、0'0内外ノ掘
下セラ試ミル事トシ大正參年拾貳月
(上総式ニテ)掘下ニ着手シ5-5/8"鉄管
111k、3'2ヨリ130k、5'0迄漸次追降
シ引続キ掘進中ノ處133k、3'8ヨリ火
山岩ニ逢着シ非常ニ硬質ニテ掘
進困難ナルノミナラズ以下掘下ス
ルモ出油ノ見込ミ立タザルニ付大正
四年四月貳拾壹日作業指令No 292
ニテ廢坑ニ決定セラレシニ付全年四
月貳拾三日ヨリ挿入鉄管引揚ニ着
手シ5-5/8"並に10-5/8"鉄管ハ全部引揚

得タレドモ8"鉄管ハ坑側ノ圧迫甚敷
全管ノ引揚不可能ナリシニ付キ
70k、5'0、65k、0'0、ノニヶ所ニ於テ
切断シ引揚作業中捻子不完全
ノ部ヨリ捻子ヌケ揚り来リシニ付
26k、4'0放棄ノ上51k、0'4ヲ引
揚ノ上大正四年六月28日終結
ヲ告グ

【文章記載の解説】

本坑井は、明治41年2月1日に、旧豊鉱石油会社から引き継いだもので、それ以来、深度113間0尺0寸（187.27m）付近の油層から原油を採取してきた。

しかし、しだいに産油量が減ってきたため、それよりも下位の地層の産油能力をみるため、10間（18m）程度の掘り下げ（増し掘り、増掘）を試すこととし、大正3年12月、上総式にて掘り下げを開始した。直径5インチ5分の鉄管を使って、元の井戸の掘り止め深度（元肌）である深度111間3尺2寸（202.79m）から、掘り下げを開始したのである。順次、深度130間5尺0寸（237.88m）まで掘り進んでいき、さらに掘進したところ、深度133間3尺8寸（242.97m）から火山岩にいきあたり、この岩石が非常に硬くてほとんど掘り進めることができなくなってしまった。火山岩からは原油が産出する見込みもないことから、大正4年4月21日付の作業指令No 292によって廃坑することが決定された。

これに従い、同年4月23日から、井戸内に入れてある鉄管の引揚げを開始した。直径5インチ5分のものと10インチ5分の鉄管は全部引揚げることができたものの、直径8インチの鉄管は、井戸の側壁がせり出して狭まっているせいで激しく圧迫されているらしく、全部を引き揚げることは不可能と判断し、深度70間5尺0寸（128.79m）と、65間0尺0寸（118.18m）の2か所で鉄管を切断し、これらを順次引き揚げ始めた。しかし引揚げ作業中に、鉄管どうしを接続するネジが不完全であったためであろう、ネジがはずれてそれより下部を引き揚げることができなかった。そのため、はずれてしまった長さ26間4尺0寸（48.48m）の部分を放棄し、それ以外の長さ51間0尺4寸（92.85m）を引き揚げたところで、大正4年6月28日に作業終了した。

新潟縣耕種登録第 586 號

坑井所在地 金津大字 金津小字 東又

地主

作業指令書 明治 4 年 4 月 20 日 1140092

起 工 明治 3 年 12 月 23 日

竣 工 明治 一年 一月 一日

工 數 延日數 548.102 日
延人数 448 人

掘止間數 掘下 2052 134 間 0 尺 2 寸

油層及其厚 1025m 25 114502 道
厚 11402

掘止當時晝夜出油量 一石一斗

改算ボーム 一度一分

槽 (新、古、板、角、間) 古 54 尺 2 寸

油井價額内訳	基品額計	円
	掘鑿費計	150840
	合計	150840
	工賃	146520
	燃料費 消耗費 修繕費 地元費	4320

本坑井は明治四拾壹年貳月壹日
旧豊鉄會社より引継ぎ以來深處
1735m 内部ニ於ケル油層探取ニ來
リテ漸次減油ニシテ下層油
層探見、目的ニテ 100m 内部、掘
下ヲ試ミル事トシ大口産年拾貳月
(上級式) 掘下ニ着キ 5 寸 鉄管
11453207 1305502 道漸次進降
シテ續々掘進中、屢 13353207 火
山岩ニ達シ非常、硬質ニテ掘
進困難ナルヲ以テ 3 寸 以下掘下ス
ルニ出油、見込 507m 以下大口
四年四月貳拾貳日作業指令 114292
ニテ廢坑ニ決定セラレニ付今年
月貳拾 日 引入 鉄管 引揚ニ着
キ 5 寸 鉄管 10 分 鉄管 全部 引揚
解ラレ 8 寸 鉄管 坑側 圧迫甚敷
金管 引揚 不可能 ナリニ付
70550 65502 2 寸 所ニ於テ
切斷シ 引揚 作業中 様子 不完全
、部 様子 引揚 來リニ付
26.4. 放棄、上 51504307
揚、上大口四年六月 28 日 終結
ヲ告グ

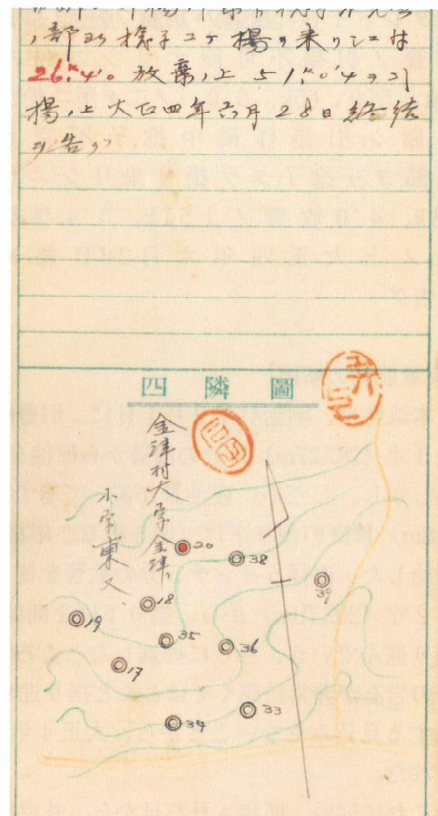


図 2 その 1 金津機械式 20 号井の油井断面図. 左: 表上部 右: 表下部. (中野家文書)

資料 油井断面図の文面採録と解説 図3【金津鉾場 機械 第22号井】

新潟 縣 採 掘 登録 第586號
坑井所在地 金津 村大字 金津 小字 東又
地主 目黒八百蔵
作業指令書 (空欄)
起工 明治45年 3 月 7 日
竣工 (空欄)
工數
延日數 12時間 67日
24 ヲ 0 日
延人數 217人
掘削間數 114間 1 尺 0 寸 (207.58 m)
油層及其厚 (空欄)
掘止當時壹昼夜出油量 引継當時 4 石 0 斗
改算ボーメー 18度 0 分
櫓 (新、古、板、角、間) 古 板 10k
油井価額
基品額計 140円80
掘鑿費計
合計
掘鑿費内訳
工賃 114円38 (下欄と入替指示の矢印記号あり)
燃料費 53円04 (上欄と入替指示の矢印記号あり)
消耗費 -
修繕費 -
地元費 -

本井ハ明治41年2月1日 旧豊鉾
石油会社ヨリ引継ギヲナシ其ノ詳細
ハ判明セズト雖モ引継ギ當時 4 石ヲ
採取シツ、アリシモ漸次油帶枯渴
シ謹 [ママ] ヲ 1 斗程ニ減少到底収支償
ザルニ依リ爾來休坑中ノ処愈々廢
坑 ニ 決 シ 明 治 4 5 年 3 月 7 日
挿入パイプ引揚ニ着手ス先ヅ
4-1/4" 5-5/8" 8"パイプ全部引揚
次ニ10-5/8" パイプ引揚ニ着手セシモ
坑側ノ圧迫甚敷シク引揚不可能ニ付
管内掘進ヲナシ而シテ打込打揚ニ
操通シタルモ尚坑側ノ圧出甚敷シク
頑トシテ動かズ到底引揚ニ見込
ナキニ依リ已不得ズ 6k-0'3"ノヶ所ヨリ
捻子ヲ戻シ引揚ヲ了シ 以下 5k-4'1"
ハ坑内ニ断念放棄ス (45年7月5日)

而シテ大正元年 8 月 20〔ママ〕 櫓取崩ニ
着手シ全月 24 日全部終了ス

【文章記載の解説】

本井は、明治 41 年 2 月 1 日に旧豊鉱石油会社から引継いだもので、過去の詳細はよくわからないものの、引継いだ当時は日産量 4 石（約 0.73kL）であった。しかし次第に油層が枯渇し、産出量が日量たった 1 斗（0.02kL）程度に減少してしまい、採算がとれなくなったことから、その時点で休坑（生産中止）としていた。その後、この井戸は廃坑することに決定し、明治 45 年 3 月 7 日に、挿入したパイプの引揚げを開始した。まず、直径 4 インチ 2 分、5 インチ 5 分、そして 8 インチのパイプを全部引揚げた。その次に、直径 10 インチ 5 分のパイプの引揚げに取りかかったが、井戸の側壁からの圧迫がはなはだしく、引き揚げ不可能となったので、そのパイプの内部にビットを降ろして掘進してみて、「打込打揚」をやってみたが、やはり井戸の側壁からの圧迫がはなはだしく、「頑として」動かないため、引き揚げの見込みなしとの判断に至り、やむをえず深度 6 間 0 尺 3 寸（11.00m）のところで鉄管を継いでいるネジを戻して連結をはずし、それより上部だけを引き揚げた。残る長 5 間 4 尺 1 寸（10.33m）分は、断念して井戸内に放棄することとなった（明治 45 年 7 月 5 日）。そうして大正元年 8 月 20 日に櫓の解体を開始し、同月 24 日に全部の作業を終了した。

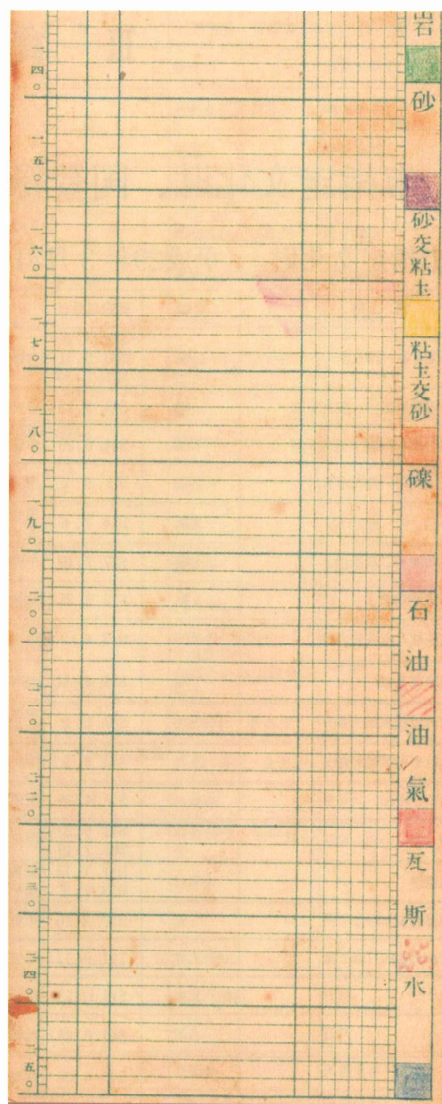
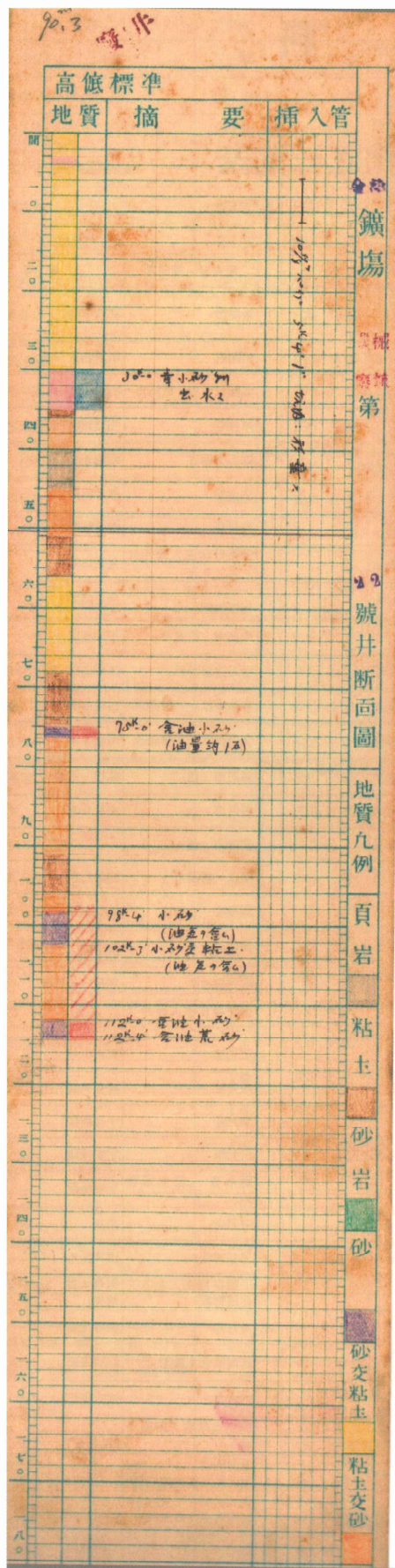


図3 その2 金津機械式22号井の油井断面図. 左:裏上部 右:裏下部. (中野家文書)

Ⅲ 資 料

1 国・県・市指定文化財、国登録文化財一覧表

(1) 国・県・市指定文化財 (平成29年3月31日現在)

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
国	1	有	建	旧笹川家住宅	11棟	S29. 3. 20 S53. 5. 31 H 3. 5. 30	南区味方216	新潟市	文政年間	味方村	南区
国	2	有	建	新潟県議会旧議事堂附 棟札2枚	1棟	S44. 3. 12	中央区一番堀通町3-3	新潟県	明治15年	新潟市	中央区
国	3	有	建	旧新潟税関庁舎 附 棟札1枚	1棟	S44. 6. 20	中央区緑町343/-8	文部科学省・新潟市	明治2年	新潟市	中央区
国	4	有	建	種月寺本堂 附 棟札2枚	1棟	H 1. 9. 2	西蒲区石瀬	種月寺	元禄12年	岩室村	西蒲区
国	5	有	建	萬代橋	1基	I116. 7. 6	中央区万代から中央区下大川前通・中央区川端町間	国土交通省	昭和4年	新潟市	中央区
国	6	有	絵	絹本着色不動明王二童子像	1幅	S27. 7. 19	中央区沼垂東	法光院	鎌倉後期	新潟市	中央区
国	7	有	彫	木造地藏菩薩半跏像	1軀	S12. 5. 25	秋葉区小須戸	茂林寺	南北朝期	小須戸町	秋葉区
国	8	有	工	彩磁窯果文花瓶 板谷波山作	1口	H18. 6. 9	中央区東大通	公益財団法人敦井コレクション	大正15年	新潟市	中央区
国	9	有	書	雪村友梅墨跡梅花詩	1幅	S35. 6. 9	江南区沢海	一般財団法人北方文化博物館	南北朝期	横越町	江南区
国	10	有	考	越後国菟浦古墳経塚出土品	一括	S37. 2. 2	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	金仙寺・新潟市	平安後期	巻町	中央区
国	11	民	有民	金刀比羅神社奉納模型和船	28点	S40. 6. 9	中央区西腰島町	金刀比羅神社	江戸後期～明治中期	新潟市	中央区
国	12	記	史	菖蒲塚古墳		S 5. 4. 25	西蒲区竹野町	金仙寺ほか・新潟市	古墳前期	巻町	西蒲区
国	13	記	史	旧新潟税関		S44. 6. 20 S55. 2. 19	中央区緑町3437	文部科学省・新潟市	明治2年	新潟市	中央区
国	14	記	史	古津八幡山遺跡		H17. 7. 14 H23. 2. 7	秋葉区金津、秋葉区古津、秋葉区蒲ヶ沢	新潟市 他	弥生～古墳	新津市	秋葉区
国	15	記	名	旧齋藤氏別邸庭園		H27. 3. 10	中央区西大畑町576-2ほか	新潟市	大正9年	新潟市	中央区
国	16	記	天	鳥屋野逆ダケの藪		T11. 10. 12	中央区鳥屋野	新潟市・個人		新潟市	中央区
国	17	記	天	月潟の類産ナシ	1本	S16. 11. 13	南区大別當	個人・新潟市	樹齢約200年	月潟村	南区
国	18	記	天	ヒンクイ		S46. 6. 28	新潟県	新潟県	県全域	県全域	全域 (北区)
国	19	記	天	マガン		S46. 6. 28	新潟県	新潟県	県全域	県全域	全域 (北区)
県	1	有	建	諏訪神社本殿	1棟	S61. 3. 28	南区味方	味方自治会	慶長15年再建	味方村	南区
県	2	有	絵	渭城柳色 大雅筆 附 大雅書「渭城柳色」	1幅	S33. 3. 22	中央区東大通	公益財団法人敦井コレクション	延享元年	新潟市	中央区
県	3	有	絵	絹本着色三千仏図	3幅	S44. 3. 25	中央区沼垂東	法光院	寛正7年	新潟市	中央区
県	4	有	絵	絹本着色慈恩大師像	1幅	S47. 3. 28	中央区沼垂東	法光院	鎌倉末期	新潟市	中央区
県	5	有	彫	木造菩薩立像	1軀	S27. 12. 10	中央区西堀通	瑞光寺	平安前期	新潟市	中央区
県	6	有	彫	木造薬師如来坐像	1軀	S41. 3. 18	東区松崎 薬師庵内	法光院	平安後期	新潟市	東区
県	7	有	彫	木造阿弥陀如来立像	1軀	S52. 3. 31	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	西永寺・(歴史博物館)	平安後期	白根市	中央区
県	8	有	彫	銅造観音菩薩立像	1軀	H21. 3. 24	西蒲区赤嶺	遍照寺	奈良	巻町	西蒲区
県	9	有	彫	木造伝島山重宗夫妻坐像	2軀	H21. 3. 24	中央区長嶺町	浦原神社	建武元年	新潟市	中央区
県	10	有	工	太刀(無銘)	1口	S40. 4. 7	江南区沢海	一般財団法人北方文化博物館	鎌倉末期 (S61盗難に遭い紛失)	横越町	江南区
県	11	有	書	南央謙宗墨跡書籍	22冊	S29. 2. 10	西蒲区石瀬	種月寺	室町後期	岩室村	西蒲区
県	12	有	書	長善館学塾資料	一括283点	S42. 3. 25	中央区女池南 県立文書館内	新潟県立文書館	江戸後期	新潟市	中央区
県	13	有	書	桂家国学関係資料	一括508点	S42. 3. 25	中央区女池南 県立文書館 秋葉区中村	個人	江戸後期	新津市	中央区
県	14	有	古	堀直詩文書	56点	S39. 3. 22	西区五十嵐 新潟大学附属図書館内	国立大学法人新潟大学	江戸初期	新潟市	西区
県	15	有	古	市島家文書	16,528点	S47. 3. 28	中央区女池南 県立文書館内	新登田市・新潟県立文書館	江戸～昭和期	新潟市	中央区
県	16	有	古	渡部家文書	2,582点	H12. 3. 24	中央区女池南 県立文書館内	個人・新潟県立文書館	江戸中期～明治期	新潟市	中央区
県	17	有	考	甕龍鏡(越後国菖蒲塚古墳出土)	1面	S37. 3. 29	東京国立博物館	個人	古墳前期	巻町	西蒲区
県	18	有	考	木崎山出土地鎮具	一括	S59. 3. 27	秋葉区金津93-1 県埋蔵文化財センター内	新潟県教育委員会	鎌倉	新津市	秋葉区

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
県	19	有	考	的場遺跡出土品	一括	H 8. 3. 29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市	奈良・平安	新潟市	西区
県	20	有	考	五丁歩遺跡出土品	一括1,394点	H13. 3. 23	秋葉区金津93-1 県埋蔵文化財センター内	新潟県教育委員会	縄文中期	新津市	秋葉区
県	21	有	考	浦題遺跡出土品	一括2,160点	H16. 3. 30	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市	鎌倉後期	新津市	西区
県	22	有	考	上ノ平遺跡・古ヶ沢遺跡出土品	一括1,103点	H17. 3. 25	秋葉区金津93-1 県埋蔵文化財センター内	新潟県教育委員会	後期旧石器時代	新津市	秋葉区
県	23	有	考	青田遺跡出土品	一括2,076点	H21. 3. 24	秋葉区金津93-1 県埋蔵文化財センター内	新潟県教育委員会	縄文晩期	新津市	秋葉区
県	24	有	考	滝寺窯跡群・大貫窯跡群土品	一括1,012点	H23. 3. 22	秋葉区金津93-1 県埋蔵文化財センター内	新潟県教育委員会	平安時代	新津市	秋葉区
県	25	有	考	南赤坂遺跡出土品	110点	H25. 3. 26	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市	古墳前期	巻町	西区
県	26	有	考	余川中道遺跡出土品	255点	H26. 3. 25	秋葉区金津93-1 県埋蔵文化財センター内	新潟県教育委員会	古墳中期～後期	新津市	秋葉区
県	27	有	歴	学塾三餘堂関係資料 附 印章類125顆	一括	H 9. 3. 28 H11. 3. 30	中央区女池南 県立図書館・東区東 中野山	新潟県立図書館・ 個人	江戸～明治	新潟市	中央区
県	28	有	歴	新潟市上水道敷設関係資料	一括258点	H15. 3. 28	中央区学校町通1-602-1 歴史文化課内	新潟市	明治中期～昭和初期	新潟市	中央区
県	29	有	歴	亀田町上水道敷設関係資料	一括4点	H15. 3. 28	江南区茅野山3-1-14 江南区郷土資料館内	新潟市	昭和初期	亀田町	江南区
県	30	有	歴	新潟奉行川村修就関係資料	1,859点	H25. 3. 26	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	新潟市	江戸後期	新潟市	中央区
県	31	有	歴	新潟県近代行政文書	2,465点	H29. 3. 21	中央区女池南 県立文書館内	新潟県	明治期～大正期	新潟市	中央区
県	32	民	有民	大船絵馬	1面	S44. 3. 25	中央区一番堀通町	白山神社	嘉永5年	新潟市	中央区
県	33	民	風	越後の風合戦習俗	3	H27. 3. 24	南区白根・西白根 三条市上須須 見附市今町・長岡市中之島	白根風合戦協会 三条風協会 今町中之島大風合戦 協会	江戸期	白根市	南区
県	34	記	史	的場遺跡		H 6. 3. 29	西区の場流通1	稲荷神社・新潟市	奈良～平安	新潟市	西区
県	35	記	史	緒立遺跡		H 6. 3. 29	西区黒鳥字川根湯・西区緒立流通 2	緒立八幡宮・新潟市	奈良～平安	黒埼町	西区
県	36	記	名	浄専寺庭園		H 2. 3. 30	西蒲区石瀬	浄専寺	文化～文政年間	岩室村	西蒲区
県	37	記	天	高森の大ケヤキ	1本	S31. 3. 23	北区高森	稲荷神社・高森自治 会	樹高m20m、胸高周り10m	豊栄市	北区
県	38	記	天	間瀬柱状熔岩		S36. 3. 20	西蒲区間瀬	新潟市		岩室村	西蒲区
県	39	記	天	八珍柿原木	1本	S37. 3. 29	秋葉区古田	個人	樹高m16m、胸高周り2m	新津市	秋葉区
県	40	記	天	賀茂神社の大ケヤキ	1本	S42. 3. 25	江南区木津	賀茂神社	高さm11m、胸高周囲6.4m	横越町	江南区
市	1	有	建	木場八幡宮本殿	1棟	S48. 4. 15	西区木場	木場八幡宮	江戸	黒埼町	西区
市	2	有	建	阿部家仏間	1棟	S48. 4. 15	西区黒鳥	個人	江戸	黒埼町	西区
市	3	有	建	長徳寺の山門	1棟	S49. 3. 23	西蒲区横戸	長徳寺	天保9年	湯東村	西蒲区
市	4	有	建	善養寺の山門	1棟	S49. 3. 23	西蒲区熊谷	善養寺	文政元年	湯東村	西蒲区
市	5	有	建	新光寺山門	1棟	S50. 10. 1	西蒲区高野宮	新光寺	享保年間	中之口村	西蒲区
市	6	有	建	横越組大庄屋建部尚行の碑	1基	S51. 6. 20	江南区横越東町	個人	江戸末期	横越町	江南区
市	7	有	建	諏訪神社本殿	1棟	S53. 4. 1	西区金巻	諏訪神社	江戸	黒埼町	西区
市	8	有	建	妙蓮寺山門	1棟	S53. 4. 14	秋葉区東島	妙蓮寺	文政9年	新津市	秋葉区
市	9	有	建	満徳寺経堂	1棟	S55. 7. 16	南区大別當	満徳寺	天保14年	月潟村	南区
市	10	有	建	福浄寺本堂	1棟	S56. 5. 25	西区板井	福浄寺	江戸	黒埼町	西区
市	11	有	建	善光寺如来堂	1棟	H 8. 10. 16	西蒲区善光寺	善光寺	明和8年	西川町	西蒲区
市	12	有	建	愛宕神社 本殿・拝殿	2棟	H13. 11. 3	中央区古町通	愛宕神社	18世紀	新潟市	中央区
市	13	有	建	法淳寺本堂	1棟	H13. 11. 3	北区濁川	法淳寺	17世紀末期	新潟市	北区
市	14	有	建	真光寺太子堂	1棟	H13. 11. 3	江南区松山	真光寺	安永7年	新潟市	江南区
市	15	有	建	復原 澤将監の館 母屋・土蔵・表門	3棟	H16. 1. 20	西蒲区打越甲434	新潟市	平成6年復原	中之口村	西蒲区
市	16	有	建	旧小澤家住宅 主屋・新座敷・離れ座敷 他	7棟	H18. 8. 24	中央区上大川前通12-2733	新潟市	明治前期（明治末期増改 築）	新潟市	中央区
市	17	有	絵	絹本着色地藏菩薩像	1幅	S37. 3. 29	西蒲区巻甲	安養寺	平安	巻町	西蒲区
市	18	有	絵	絹本着色不動明王二童子像	1幅	S38. 3. 28	西蒲区巻甲	個人	室町	巻町	西蒲区
市	19	有	絵 (書)	大黒天図 五十嵐俊明筆 竹内式部賛	1幅	S49. 11. 3	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	新潟市	江戸中期	新潟市	中央区
市	20	有	絵	五十嵐俊明筆 三十六歌仙図 扁額	1面	S49. 11. 3	中央区西大畑町 新潟大神宮内	新潟大神宮	江戸中期	新潟市	中央区
市	21	有	絵	顕如上人親鸞聖人絵像裏書	2巻	S50. 9. 16	西蒲区曾根	個人	江戸初期	西川町	西蒲区
市	22	有	絵	行田親庵筆 「新潟入船之図」	1幅	S51. 11. 2	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	個人・新潟市	明治4年	新潟市	中央区

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
市	23	有	絵	五姓田芳柳筆 「新潟萬代橋」図	1 幅	S53. 11. 3	中央区柳島町 2-10 歴史博物館内	新潟市	明治21年	新潟市	中央区
市	24	有	絵	宗賢寺歴世住職肖像画	19幅	S54. 2. 9	江南区横越東町	宗賢寺	元文 4 年	横越町	江南区
市	25	有	絵	本間家懲震恣鑑（文政地震画帖）	1 冊	S55. 3. 22	秋葉区市之瀬	個人	文政11年以降	新津市	秋葉区
市	26	有	絵	長井雲坪筆 四季山水図 六曲屏風	1 双	S55. 11. 1	中央区柳島町 2-10 歴史博物館内	個人・新潟市	明治25年	新潟市	中央区
市	27	有	絵	山論裁定絵図と山論関係記録	絵図 4 面 記録21点	S56. 5. 27	秋葉区金津	個人	元禄年間	新津市	秋葉区
市	28	有	絵	普談寺絵馬	2 枚 (1 対)	S57. 2. 17	秋葉区朝日	普談寺	江戸初期	新津市	秋葉区
市	29	有	絵	五姓田芳柳筆 八木朋直肖像	1 幅	S57. 11. 3	中央区柳島町 2-10 歴史博物館内	新潟市	明治20年	新潟市	中央区
市	30	有	絵	五姓田芳柳筆 鈴木長蔵肖像	1 面	S57. 11. 3	中央区柳島町 2-10 歴史博物館内	新潟市	明治18年	新潟市	中央区
市	31	有	絵	五姓田芳柳筆 帆檣成林	1 面	S57. 11. 3	中央区礎町通	個人	明治	新潟市	中央区
市	32	有	絵	書画帖	3 冊	H 3. 3. 18	秋葉区新保	個人	安政 3 年	小須戸町	秋葉区
市	33	有	絵	絵馬（頼光入山の図・虎と松・三十六歌仙）	3 点	H 5. 8. 1	江南区東本町	亀田諏訪社	江戸	亀田町	江南区
市	34	有	絵	味方諏訪神社 献詠詩歌	3 点	H 8. 12. 26	南区味方	味方自治会	寛延 4 年	味方村	南区
市	35	有	彫	木造阿弥陀如来立像	1 躯	S37. 3. 29	西蒲区潟頭	個人	平安	巻町	西蒲区
市	36	有	彫	木造角海浜聖観世音菩薩像	1 躯	S42. 3. 30	西蒲区五ヶ浜	（大字角海）・五ヶ浜自治会	江戸	巻町	西蒲区
市	37	有	彫	聖観音像	1 躯	S48. 3. 30	西蒲区茨島	茨島観音講	元文期以前	潟東村	西蒲区
市	38	有	彫	木造地藏菩薩立像	1 躯	S50. 2. 24	南区庄瀬	潮山寺	16世紀後半	白根市	南区
市	39	有	彫	三十三観音像	33躯	S50. 10. 1	西蒲区打越	浦川講中	承応元年	中之口村	西蒲区
市	40	有	彫	天正の狛犬	1 対	S50. 10. 1	西蒲区打越	浦川講中	不明	中之口村	西蒲区
市	41	有	彫	善養寺の阿弥陀如来像	1 躯	S55. 4. 1	西蒲区熊谷	善養寺	平安	潟東村	西蒲区
市	42	有	彫	木造阿弥陀如来立像	1 躯	S55. 7. 16	南区上曲通	梵行寺	室町初期	月潟村	南区
市	43	有	彫	木造聖観音菩薩立像	1 躯	S58. 3. 22	江南区横越上町	観音小路氏子中	室町	横越町	江南区
市	44	有	彫	地藏菩薩像	1 躯	S61. 9. 17	江南区砂山	砂崩地藏講	江戸初期	亀田町	江南区
市	45	有	彫	亀田八景 版木	5 枚	H 5. 8. 1	江南区茅野山 3-1-14 江南区郷土資料館内	新潟市	弘化 4 年	亀田町	江南区
市	46	有	彫	善光寺如来堂本尊	3 躯	H 8. 10. 16	西蒲区善光寺	善光寺区長	室町～江戸期	西川町	西蒲区
市	47	有	彫	光明院木造薬師如来像	1 躯	H14. 3. 26	江南区木津	光明院	平安～鎌倉期	横越町	江南区
市	48	有	彫	木造如来座像	1 躯	H14. 12. 25	西蒲区岩室温泉	岩室どん坂阿弥陀講中	鎌倉後期～南北朝前期	岩室村	西蒲区
市	49	有	工	古瀬戸鉄釉瓶子	1 口	S36. 3. 16	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館	新潟市	鎌倉末期	巻町	西蒲区
市	50	有	工	誕生釈迦仏立像	1 躯	S45. 4. 1	西区板井	個人	不明	黒埼町	西区
市	51	有	工	刀装エノ拵え	1 点	S47. 3. 30	中央区学校町通 1-602-1 歴史文化課内	新潟市	不明	黒埼町	中央区
市	52	有	工	鯉口 貞治七戊申年銘 附天保十一年丹羽思孝拓本識語 1 幅	1 口	S51. 11. 2	中央区沼垂東	沼垂白山神社	貞治 7 年	新潟市	中央区
市	53	有	工	刀剣	2 振	S52. 3. 22	南区西白根	個人	桃山期	味方村	南区
市	54	有	工	赤絵花菱唐草文灯籠	1 対	S58. 3. 31	北区太子堂	上宮社 管理者：太子堂自治会	明治	豊栄市	北区
市	55	有	工	武者絵深鉢	1 点	S58. 3. 31	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	明治	豊栄市	北区
市	56	有	工	鍍金装笠	1 点	H 7. 9. 12	西蒲区石瀬	青龍寺	室町末期	岩室村	西蒲区
市	57	有	工	山崎興野地内出土の懸仏	2 躯	H17. 2. 9	南区ト山崎、南区山崎興野	個人	室町～戦国期	白根市	南区
市	58	有	工	色絵金彩梅鶯松蟬図花瓶	2 点	H17. 3. 18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	明治	豊栄市	北区
市	59	有	工	染付藻魚図平鉢	1 点	H17. 3. 18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	明治	豊栄市	北区
市	60	有	書	良寛書 双幅「いろは、一二三」	2 幅	S35. 2. 12	西蒲区松野尾	個人	江戸	巻町	西蒲区
市	61	有	書	良寛書 振仮名付十大願文	1 巻	S37. 3. 29	西蒲区巻甲	個人	江戸	巻町	西蒲区
市	62	有	書	日寿筆 祖書綱要冊略稿本	7 冊	S38. 3. 30	西蒲区角田浜	妙光寺	江戸	巻町	西蒲区
市	63	有	書	懐旧歳時記	2 冊	S41. 3. 29	西蒲区巻甲	個人	明治 9 年	巻町	西蒲区
市	64	有	書	良寛書 長谷川家法名	1 幅	S42. 3. 30	西蒲区角田浜	個人	江戸	巻町	西蒲区
市	65	有	書	松丘立生詩歌集	1 冊	S43. 3. 8	西蒲区巻甲	個人	江戸期	巻町	西蒲区
市	66	有	書	館柳湾遺品（書翰・印刻・看板・墨書）	一括	S45. 3. 27	西蒲区巻甲	個人	江戸期	巻町	西蒲区
市	67	有	書	水沢新田村御検地帳並に古文書	一括	S48. 3. 30	西蒲区三方92 潟東歴史民俗資料館内	新潟市	承応年間～明治10年	潟東村	西蒲区

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
市	68	有 書		下大原村御検地帳並に地図	一括	S48. 3. 30	西蒲区三方92 潟東歴史民俗資料館内	新潟市	享保11年	潟東村	西蒲区
市	69	有 書		白根紙壽合戦見聞記	1 巻	S48. 4. 12	南区白根	個人	弘化 4 年	白根市	南区
市	70	有 書		竹内式部書 「松」一字 五言対句	1 幅	S49. 11. 3	中央区柳島町 2-10 歴史博物館内	新潟市	江戸中期	新潟市	中央区
市	71	有 書		竹内式部書 一行 白圭之站云々	1 幅	S49. 11. 3	中央区西大畑町	個人	江戸中期	新潟市	中央区
市	72	有 書		竹内式部筆 三宅島流人罪名帳 断簡	1 枚	S49. 11. 3	中央区柳島町 2-10 歴史博物館内	新潟市	明和 4 年	新潟市	中央区
市	73	有 書		五之上村御検地帳 御米印帳	2 冊	S51. 3. 9	西蒲区五之上	個人	慶安 2 年、慶応 4 年	潟東村	西蒲区
市	74	有 書		蓮徳寺一切経	1,160冊	S53. 4. 14	秋葉区西島	蓮徳寺	寛文年間	新津市	秋葉区
市	75	有 書		獅子踊り歌詞秘書	5 巻	S55. 3. 22	秋葉区日宝町 6-2 新津図書館内	小戸下組獅子保存 会・新潟市	文化10年	新津市	秋葉区
市	76	有 書		万福寺九世悦嚴素忻遺墨	5 点	S61. 3. 28	西蒲区仁箇	万福寺	江戸	巻町	西蒲区
市	77	有 書		亀田鵬斎書 山茶之亭扁額	1 面	S61. 3. 28	西蒲区松野尾	個人	文化 7 年	巻町	西蒲区
市	78	有 書		小須戸町屋舗絵図面	1 枚	H13. 3. 18	秋葉区小須戸	個人	文政 9 年	小須戸町	秋葉区
市	79	有 書		木住寺棟札	7 枚	H 3. 3. 18	秋葉区横川浜	木住寺	永禄元年	小須戸町	秋葉区
市	80	有 書		小泉蒼軒文庫	一括	H 5. 1. 20	秋葉区日宝町 6-2 新津図書館内	個人・新潟市	江戸末期	新津市	秋葉区
市	81	有 書		真宗本山講中「御書」	3 巻	H 5. 12. 14	西蒲区打越甲434 澤将監の館内	打越婦人講 他 澤将監の館	文政 8 年	中之口村	西蒲区
市	82	有 書		香月堂鶯宿関係資料 (盛弘社芭蕉講軸物ほか)	19種	H 6. 2. 18	西蒲区曾根1951 西川学習館内	新潟市	大正～昭和 5 年	西川町	西蒲区
市	83	有 書		香月堂鶯宿関係資料 (山口嵐更半折ほか)	4 点	H 6. 2. 18	西蒲区曾根1951 西川学習館内	新潟市	大正～昭和 5 年	西川町	西蒲区
市	84	有 書		年中故事	6 冊	H 6. 3. 30	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館	新潟市	弘化 3 ～慶応 2 年	巻町	西蒲区
市	85	有 書		良寛書 有則堂	1 幅	H 6. 3. 30	西蒲区角田浜	願正寺	江戸	巻町	西蒲区
市	86	有 書		巻菱湖筆 司空表聖詩品二十四章	2 帖	H11. 9. 29	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館	新潟市	江戸	巻町	西蒲区
市	87	有 書		武田信玄・勝頼の感状	1 幅 (2 点)	H16. 1. 20	西蒲区打越甲434 澤将監の館内	個人 澤将監の館	16世紀	中之口村	西蒲区
市	88	有 書		有願筆の屏風・掛軸	28点	H17. 2. 9	南区新飯田ほか	個人	江戸末期	白根市	南区
市	89	有 古		慶長五年巻村検地帳	1 冊	S36. 3. 16	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館	新潟市	慶長 5 年	巻町	西蒲区
市	90	有 古		越前国小橋屋村御検地帳	1 冊	S38. 3. 30	西蒲区巻甲	個人	慶長 3 年	巻町	西蒲区
市	91	有 古		慶安三年蒲原郡松尾村人御改帳	1 冊	S43. 3. 8	西蒲区松山新田	個人	慶安 3 年	巻町	西蒲区
市	92	有 古		笛木家文書	400点	S44. 3. 15	西蒲区中郷屋	個人	江戸	巻町	西蒲区
市	93	有 古		龍島黒印状	1 幅	S40. 3. 24	西蒲区巻甲	城願寺	天正18年	巻町	西蒲区
市	94	有 古		延宝三年乙卯・地境出入御裏書絵図並に 附帯文書 1 通	1 巻	S48. 3. 30	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館	新潟市	江戸	巻町	西蒲区
市	95	有 古		倉嶋家文書	677点	S48. 6. 18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	江戸～	豊栄市	北区
市	96	有 古		年貢割付状及皆済日録	181通	S50. 9. 16	西蒲区真田	個人	江戸～明治初期	西川町	西蒲区
市	97	有 古		承応 3 年～明治初年庄屋文書	269通	S52. 3. 4	西蒲区善光寺	個人	江戸～明治初期	西川町	西蒲区
市	98	有 古		真柄家石油関係資料	70点	S53. 4. 14	秋葉区柄目木、秋葉区日宝町 6-2 新津図書館内	個人 新潟市	慶長18年～明治33年	新津市	秋葉区
市	99	有 古		澤田家能代川堰関係資料	26点	S53. 4. 14	秋葉区草水町	個人	天正 8 年～昭和16年	新津市	秋葉区
市	100	有 古		土屋家文書	607点	S54. 2. 27	西蒲区西汰上	個人	江戸～明治中期	西川町	西蒲区
市	101	有 古		黒鳥村諸色書上帳	1 冊	S54. 4. 1	中央区学校町通 1-602-1 歴史文化課内	新潟市	江戸	黒埼町	中央区
市	102	有 古		高橋(武田)源助の書簡	1 通	S54. 4. 1	西区木場	個人	江戸	黒埼町	西区
市	103	有 古		小山家所蔵古文書	58点	S57. 7. 21	西区大野町	個人	江戸	黒埼町	西区
市	104	有 古		梨栄造育秘鑑及び証文	1 式	H 2. 6. 28	南区東萱場	個人	天明 2 年	白根市	南区
市	105	有 古		石井家文書	88点	H 5. 5. 27	江南区沢海	一般財団法人北方文 化博物館	江戸～明治期	横越町	江南区
市	106	有 古		割野新田開発許可状	1 枚	H 5. 8. 1	江南区茅野山 3-1-14 江南区郷土資料館内	個人	寛永13年	亀田町	江南区
市	107	有 古		越前浜村立許可状	1 枚	H 6. 3. 30	西蒲区巻甲	個人	慶長16年	巻町	西蒲区
市	108	有 古		澤家文書	552点	H16. 1. 20	西蒲区打越甲434 澤将監の館内	新潟市 澤将監の館	江戸～大正	中之口村	西蒲区
市	109	有 古		寛政二庚戌年福島潟絵図	1 点	H17. 3. 18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	個人 北区郷土博物館	寛政 2 年	豊栄市	北区
市	110	有 考		布日遺跡出土尖底鉢形土器	1 個	S38. 3. 30	東京国立博物館	個人	縄文前期	巻町	西蒲区
市	111	有 考		自然釉甕	1 個	S41. 3. 29	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館内	竹野町地区所有 新潟市	鎌倉末期	巻町	西蒲区

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
市	112	有	考	緒立土器	一括	S47. 3. 30	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	縄文～中世	黒埼町	西区
市	113	有	考	五ヶ浜須恵器甕	1 個	S51. 3. 9	西区木場2748-1 文化財センター内	五ヶ浜地区所有 新潟市	平安	巻町	西蒲区
市	114	有	考	中才遺跡出土品	一括	S52. 3. 4	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	平安	西川町	西区
市	115	有	考	市内遺跡出土品	72点	S58. 3. 31	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	縄文～平安	豊栄市	北区
市	116	有	考	鳥屋遺跡発掘調査出土品	一括	S59. 4. 1	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	縄文	豊栄市	西区
市	117	有	考	上黒山遺跡出土品	一括	S59. 4. 1	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	縄文～古墳	豊栄市	北区
市	118	有	考	本町中世石仏	1 体	H 5. 1. 20	秋葉区新津本町	福王寺	中世	新津市	秋葉区
市	119	有	考	大鹿諏訪神社中世石仏	1 体	H 5. 1. 20	秋葉区大鹿	諏訪神社	中世	新津市	秋葉区
市	120	有	考	盛岩寺中世石仏	3 体	H 5. 1. 20	秋葉区大安寺	盛岩寺	中世	新津市	秋葉区
市	121	有	考	馬場屋敷遺跡出土品	3017点	H 5. 7. 14	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	鎌倉後期	白根市	西区
市	122	有	考	の場遺跡出土品（県指定分は除く）	一括	H 5. 11. 3	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	縄文～中世	新潟市	西区
市	123	有	考	笹山前遺跡出土縄文時代の深鉢形土器	1 点	H10. 3. 24	中央区柳島町 2-10 歴史博物館内	新潟市教育委員会	縄文	新潟市	中央区
市	124	有	考	新谷遺跡出土浅鉢形土器	1 点	H11. 9. 29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	縄文前期	巻町	西区
市	125	有	考	南赤坂遺跡出土「の」字状垂飾	1 点	H11. 9. 29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	縄文前期～中期	巻町	西区
市	126	有	考	大沢遺跡出土中期前葉縄文土器	12点	H11. 9. 29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	縄文中期	巻町	西区
市	127	有	考	上ノ原遺跡採集土槍	1 点	H11. 9. 29	西区木場2748-1 文化財センター内	個人	縄文後期	巻町	西区
市	128	有	考	上ノ原遺跡出土「深靴」土偶	1 点	H11. 9. 29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	縄文後期	巻町	西区
市	129	有	考	御井戸遺跡出土縄文時代木製品	9 点	H11. 9. 29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	縄文晩期	巻町	西区
市	130	有	考	山谷古墳出土品	一括	H11. 9. 29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	古墳前期	巻町	西区
市	131	有	考	南赤坂遺跡出土古墳時代北方系土器（県指定分は除く）	一括	H11. 9. 29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	古墳前期	巻町	西区
市	132	有	考	前平野跡出土須恵器	1 点	H11. 9. 29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	平安	巻町	西区
市	133	有	考	沙山遺跡出土中世釣針	一括	H11. 9. 29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	室町	巻町	西区
市	134	有	考	葛塚遺跡出土朱塗り線刻物面土器	1 個体	H14. 3. 8	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	古墳前期	豊栄市	西区
市	135	有	歴	検見橋	1 脚	S38. 3. 28	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館	新潟市	江戸	巻町	西蒲区
市	136	有	歴	豊栄市役所文書	6,834点	S46. 8. 30 H17. 3. 18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	江戸～	豊栄市	北区
市	137	有	歴	佐藤家文書	3,112点	S46. 8. 30 H17. 3. 18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	江戸～明治初期	豊栄市	北区
市	138	有	歴	六灯ランプ (旧新潟税関使用シャンデリア)	1 基	S49. 11. 3	中央区柳島町 2-10 歴史博物館内	東京税関・新潟市	19世紀中期	新潟市	中央区
市	139	有	歴	浦高札	2 枚	S49. 11. 3	中央区柳島町 2-10 歴史博物館内	個人・新潟市	明治 2 年	新潟市	中央区
市	140	有	歴	松平忠輝関係文書	2 通	S49. 11. 3	中央区柳島町 2-10 歴史博物館内	新潟市	慶長15年	新潟市	中央区
市	141	有	歴	堀直奇文書	4 通	S49. 11. 3	中央区柳島町 2-10 歴史博物館内	新潟市	元和 2 ～ 3 年	新潟市	中央区
市	142	有	歴	沢海口枝神社の大織	1 組	S51. 6. 20	江南区沢海	日枝神社・北方文化 博物館	文政 8 年	横越町	江南区
市	143	有	歴	鉾屋看板 良寛書刻字	5 枚	S51. 11. 3	中央区柳島町 2-10 歴史博物館内	新潟市	江戸後期	新潟市	中央区
市	144	有	歴	横越島絵図	1 枚	S53. 11. 3	江南区割野	個人	寛永16年	新潟市	江南区
市	145	有	歴	門田ハザ並木	1 個所	S58. 2. 18	西蒲区門田	新潟市		中之口村	西蒲区
市	146	有	歴	片柳礼三の碑（墓）	1 基	S58. 2. 18	西蒲区羽黒1431-1	新潟市	明治 4 年	中之口村	西蒲区
市	147	有	歴	小杉八幡宮の大織	1 組	S63. 4. 12	江南区小杉	八幡宮	文政 8 年	横越町	江南区
市	148	有	歴	卯八郎請の御領の旗	1 流	H元. 7. 20	西蒲区三方92 湯東歴史民俗資料館内	新潟市	宝暦 3 年	湯東村	西蒲区
市	149	有	歴	朝日日本多家の双芳碑	1 基	H 5. 1. 20	秋葉区朝日	個人	明治40年	新津市	秋葉区
市	150	有	歴	秋葉神社の祈祥碑	1 基	H 5. 1. 20	秋葉区秋葉	秋葉神社	寛政11年	新津市	秋葉区
市	151	有	歴	笹川家平十郎宅絵図面	1 枚	H 5. 5. 31	南区味方213 曾我平澤記念館内	新潟市	不明	味方村	南区
市	152	有	歴	俳諧三祖塔	1 組 (3 基)	H 5. 7. 6	秋葉区中村	個人	寛政 5 年	新津市	秋葉区
市	153	有	歴	北辰隊関係資料	132点	H 9. 3. 31 H17. 3. 18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	明治元年	豊栄市	北区
市	154	有	歴	木崎小作争議資料	675点	H 9. 3. 31 H17. 3. 18	北区郷土博物館内 横井の丘ふるさと資料館内	新潟市	大正後期	豊栄市	北区

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
市	155	有	歴	浄福寺法宝物	26点	H11. 9. 29	西蒲区竹野町	浄福寺	鎌倉～安土桃山期	巻町	西蒲区
市	156	有	歴	萬泰楼の額、聯、萬巻楼記	3 点	H14. 9. 10	秋葉区中村	個人	江戸	新津市	秋葉区
市	157	有	歴	家相図	1 枚	H16. 1. 20	西蒲区打越甲434 澤将監の館内	個人 澤将監の館	江戸後期	中之口村	西蒲区
市	158	有	歴	旧鑑郷村道路元標・旧曾根村道路元標	2 基	H16. 6. 4	西蒲区天竺堂・西蒲区曾根	新潟県	大正11年以降	西川町	西蒲区
市	159	有	歴	旧升湯村道路元標	1 基	H16. 6. 4	西蒲区大湯	新潟市	大正11年以降	西川町	西蒲区
市	160	有	歴	曾根村道図	1 軸	H16. 6. 4	中央区学校町通1-602-1 歴史文化課内	新潟市	昭和22年	西川町	中央区
市	161	有	歴	鑑郷村道路線調書及び鑑郷村道図（大字別）	1 式	H16. 6. 4	西蒲区曾根1951 西川学習館内	新潟市	大正 9 年	西川町	西蒲区
市	162	有	歴	曾根郷耕地整理組合第一区整理略図	1 軸	H16. 7. 30	西蒲区曾根	個人	昭和25年	西川町	西蒲区
市	163	有	歴	横田切れの記録（腰板）	1 枚	H17. 2. 25	西蒲区三方92 湯東歴史民俗資料館内	新潟市	明治29年	湯東村	西蒲区
市	164	有	歴	下奥野新田絵図	4 点	H17. 3. 18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	享保～・明治	豊栄市	北区
市	165	有	歴	綿向神社勧請石柱	1 点	H17. 3. 18	北区内沼	内沼神社	元文元年	豊栄市	北区
市	166	無	芸	日本舞踊市山流		H15. 7. 16	中央区古町通	市山七十世	江戸後期～	新潟市	中央区
市	167	無	工技	白根紋り		H 5. 7. 14	南区白根	サークルしろね紋り	江戸後期～	白根市	南区
市	168	民	有民	民家旧宅（旧武田家住宅）	1 棟	S45. 4. 1	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市	江戸	黒埼町	西区
市	169	民	有民	篠原幸三郎家住宅	1 棟	S46. 3. 23	西蒲区五ヶ浜2453	新潟市	明治初期、昭和53年移築	巻町	西蒲区
市	170	民	有民	せんば	1 点	S47. 3. 30	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市	不明	黒埼町	西区
市	171	民	有民	湊稲荷神社願懸け高麗犬	1 対	S55. 11. 1	中央区稲荷町	湊稲荷神社	嘉永 7 年	新潟市	中央区
市	172	民	有民	満願寺稲架木並木	1 箇所	S57. 2. 17	秋葉区満願寺	満願寺集落26名・新潟市		新津市	秋葉区
市	173	民	有民	金刀比羅神社難船彫刻絵馬	1 面	S59. 11. 3	中央区寄合町	金刀比羅神社	明治30年	新潟市	中央区
市	174	民	有民	伊多井神社の天井絵	1 面	S61. 5. 1	西区板井	伊多井神社	慶応 3 年	黒埼町	西区
市	175	民	有民	のぞきからくり	一括	S62. 3. 27	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館	個人・新潟市	大正	巻町	西蒲区
市	176	民	有民	高札（基利支丹札）	1 点	H 3. 4. 1	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市	江戸中期	黒埼町	西区
市	177	民	有民	松前藩主薬箱	1 点	H 3. 4. 1	中央区学校町通1-602-1 歴史文化課内	新潟市	江戸	黒埼町	中央区
市	178	民	有民	畜動舎	1 棟	H 3. 7. 22	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市		黒埼町	西区
市	179	民	有民	角兵衛地蔵尊	2 軀	H 4. 12. 10	南区月湯	月湯地区	江戸初期	月湯村	南区
市	180	民	有民	箒箱・箒棒	1 個・23本	H 5. 2. 20	西蒲区曾根1951 西川学習館内	新潟市	万延 2 年	西川町	西蒲区
市	181	民	有民	福島湯民俗資料	401点	H 9. 3. 31 H17. 3. 18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市		豊栄市	北区
市	182	民	有民	越後毒消しコレクション	一括	H11. 9. 29	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館	新潟市	江戸末期～昭和期	巻町	西蒲区
市	183	民	有民	鑑湯で使用されていた漁労・狩猟用具	50点	H17. 2. 25	西蒲区三方92 湯東歴史民俗資料館内	新潟市	明治～昭和期	湯東村	西蒲区
市	184	民	民芸	内沼獅子舞	1	S38. 1. 12	北区内沼	内沼獅子舞保存会	享保期以降～	豊栄市	北区
市	185	民	民芸	内島見の神楽	1	S38. 1. 12	北区内島見	内島見神楽保存会	明治初期～	豊栄市	北区
市	186	民	民芸	高森の神楽	1	S38. 1. 12	北区高森	高森いざや神楽保存会	宝永年間～	豊栄市	北区
市	187	民	民芸	他門の神楽	1	S38. 1. 12	北区葛塚	他門神楽保存会	宝暦年間～	豊栄市	北区
市	188	民	民芸	嘉山の神楽	1	S38. 1. 12	北区嘉山	嘉山神楽保存会	寛政から文政年間～	豊栄市	北区
市	189	民	民芸	葛塚盆踊	1	S38. 1. 12	北区葛塚	郷土民謡保存会	明治中期～	豊栄市	北区
市	190	民	民芸	正尺の神楽	1	S40. 7. 15	北区葛塚	正尺神楽保存会	天保年間～	豊栄市	北区
市	191	民	民芸	長場の神楽	1	S43. 5. 3	北区長場	長場の神楽保存会	明治中期～	豊栄市	北区
市	192	民	民芸	和納三社神社祭礼行事	7	S43. 9. 12 S50. 2. 22 H15. 3. 12	西蒲区和納	和納三社神社氏子	花火：天保年間～ 樺遣い：大正年間～	岩室村	西蒲区
市	193	民	民芸	竹野町神楽舞	1	S44. 3. 15	西蒲区竹野町	竹野町神楽舞保存会	文化から文政年間～	巻町	西蒲区
市	194	民	民芸	巻神楽舞	1	S44. 3. 15	西蒲区巻甲	巻神楽保存会	江戸期～	巻町	西蒲区
市	195	民	民芸	稲島神楽舞	1	S44. 3. 15	西蒲区稲島	稲島神楽保存会	江戸期～	巻町	西蒲区
市	196	民	民芸	松山神楽舞	1	S44. 3. 15	西蒲区松山	松山神楽保存会	明治39年～	巻町	西蒲区
市	197	民	民芸	松野尾神楽舞	1	S44. 3. 15	西蒲区松野尾	松野尾神楽舞保存会	起源不詳、昭和31年再興	巻町	西蒲区
市	198	民	民芸	樺踊り	1	S45. 4. 1	西区木場	黒埼地区郷土芸能 保存会木場支部		黒埼町	西区

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
市	199	民	民芸	河井神楽舞	1	S50. 4. 25	西蒲区河井	河井神楽保存会	明治初期～	巻町	西蒲区
市	200	民	民芸	布目神楽舞	1	S50. 4. 25	西蒲区布目	布目神楽保存会	江戸～、昭和43年再興	巻町	西蒲区
市	201	民	民芸	国見神楽舞	1	S51. 3. 9	西蒲区国見	国見南地区自治会	江戸～、大正期復活	湯東村	西蒲区
市	202	民	民芸	湯頭神楽舞	1	S51. 6. 5	西蒲区湯頭	湯頭神楽舞保存会	明治初期～	巻町	西蒲区
市	203	民	民芸	小戸下組獅子踊り	1	H 5. 1. 20	秋葉区小戸下組	小戸下組獅子保存会	文化年間～	新津市	秋葉区
市	204	民	民芸	赤鎗神楽舞	1	H 5. 3. 30	西蒲区赤鎗	赤鎗神楽舞保存会		巻町	西蒲区
市	205	民	民芸	白根の獅子舞	1	H16. 4. 6	南区白根魚町	魚町神楽連	18世紀初期	白根市	南区
市	206	民	民芸	角兵衛獅子	1	H25. 4. 15	南区月湯	角兵衛獅子保存会	江戸中期	月湯村	南区
市	207	記	史	上城跡		S35. 2. 12	西蒲区竹野町	新潟市	室町	巻町	西蒲区
市	208	記	史	下城		S35. 2. 12	西蒲区竹野町	新潟市・個人	室町	巻町	西蒲区
市	209	記	史	館ノ腰		S36. 3. 16	西蒲区馬堀	白山神社	室町	巻町	西蒲区
市	210	記	史	巻鎗跡		S40. 3. 24 S57. 3. 26	西蒲区巻甲3104 西蒲区巻甲3028	新潟市	室町	巻町	西蒲区
市	211	記	史	天神山城址		S43. 9. 12	西蒲区石瀬・岩室温泉・間瀬	個人	室町	岩室村	西蒲区
市	212	記	史	松岳山城址		S43. 9. 12	西蒲区岩室温泉	和納	室町	岩室村	西蒲区
市	213	記	史	樋切遺跡		S48. 3. 30	西蒲区五之上	個人	弥生～平安	湯東村	西蒲区
市	214	記	史	間瀬銅山跡	7	S49. 6. 1	西蒲区間瀬	新潟市	江戸～大正9年	岩室村	西蒲区
市	215	記	史	煮坪	1 個所	S50. 9. 4	秋葉区草水町	個人・新潟市	慶長13年	新津市	秋葉区
市	216	記	史	幸清水	1 個所	S50. 12. 2	秋葉区秋葉1	新潟市	文化4年	新津市	秋葉区
市	217	記	史	上ノ原遺跡		S51. 3. 9	西蒲区竹野町	竹野町他	縄文後期～晩期	巻町	西蒲区
市	218	記	史	山谷古墳		S60. 1. 30	西蒲区福井	個人	古墳前期	巻町	西蒲区
市	219	記	史	東島城跡	1 個所	S60. 3. 4	秋葉区東島字城ヶ平1043-5	新潟市 他	中世	新津市	秋葉区
市	220	記	史	桜清水	1 個所	S61. 1. 14	秋葉区中村	那加武良神社	弘安元年	新津市	秋葉区
市	221	記	史	八幡山遺跡群	1 群	H 5. 1. 20	秋葉区古津字八幡腰ほか	新潟市	縄文～平安	新津市	秋葉区
市	222	記	史	ひさかき清水	1 個所	H 5. 1. 20	秋葉区田家	妙本寺	享保年間	新津市	秋葉区
市	223	記	史	手掘石油井戸	1 個所	H 5. 1. 20	秋葉区田家字山親割7578	新潟市	明治10年頃	新津市	秋葉区
市	224	記	史	馬堀用水遺跡		H 8. 11. 28	西蒲区馬堀	個人	馬堀用水・長恩院石塔 江戸	巻町	西蒲区
市	225	記	名	判官舟かくし	1 個所	S42. 3. 30	西蒲区角田浜	角田浜	海蝕洞	巻町	西蒲区
市	226	記	天	水芭蕉自生地	1 個所	S35. 2. 12	西蒲区仁箇	個人		巻町	西蒲区
市	227	記	天	行人塚の大樺	1 本	S39. 7. 23	西蒲区熊谷	島方自治会	樹高13.5m、胸高周囲6.4m	湯東村	西蒲区
市	228	記	天	稲島の棒谷自然林	1 個所	S44. 3. 15	西蒲区稲島	稲島		巻町	西蒲区
市	229	記	天	稲島の大杉	1 本	S44. 3. 15	西蒲区稲島	稲島	樹高22m、胸高周囲6m	巻町	西蒲区
市	230	記	天	ばしくるもん、つばくさ		S47. 2. 26	西蒲区間瀬	新潟市		岩室村	西蒲区
市	231	記	天	旧入徳館小のたぶの木	1 本	S48. 3. 30	西蒲区峰岡	新潟市	樹高7m、胸高周囲4.1m 樹齢約200年	巻町	西蒲区
市	232	記	天	上堰湯	1 個所	S49. 3. 23	西蒲区松野尾	国有地		巻町	西蒲区
市	233	記	天	山口家の大たぶの木	1 本	S49. 3. 23	西蒲区山口新田	個人	樹高15m、胸高周囲3m	湯東村	西蒲区
市	234	記	天	コウヤマキ（高野槇）	1 本	S50. 7. 12	江南区藤山	個人	樹高20m、胸高周囲3.4m	横越町	江南区
市	235	記	天	スダジイ（しいの木）	1 本	S51. 3. 9	西蒲区松野尾	仙城院	樹高10.5m、胸高周囲4.6m	巻町	西蒲区
市	236	記	天	曾根神社境内大樺	1 本	S54. 2. 27	西蒲区曾根	曾根神社	樹高20m、胸高周囲4.3m	西川町	西蒲区
市	237	記	天	大樺	1 本	S57. 12. 24	西蒲区曾根750-1 曾根小学校内	新潟市	樹高6m、胸高周囲1.8m	西川町	西蒲区
市	238	記	天	長周寺の老姫小松	1 本	H 1. 7. 20	西蒲区大原	長周寺	樹高4.7m、胸高周囲2m	湯東村	西蒲区
市	239	記	天	長沼家の老五葉松	1 本	H 1. 7. 20	西蒲区称名	個人	樹高5.6m、胸高周囲5.6m	湯東村	西蒲区
市	240	記	天	百日紅（サルスベリ）	1 本	H 1. 9. 8	南区大郷	個人	樹高11m、胸高周囲1.9m	白根市	南区
市	241	記	天	普談寺の大杉	1 本	H 5. 1. 20	秋葉区朝日	普談寺	樹高30m、胸高周囲5.3m	新津市	秋葉区
市	242	記	天	真柄家の大樺	1 本	H 5. 1. 20	秋葉区柄日本	個人・新潟市	樹高16m、胸高周囲7.8m	新津市	秋葉区
市	243	記	天	福王寺の大赤樺	1 本	H 5. 1. 20	秋葉区山谷町	福王寺	樹高15m、胸高周囲2.9m	新津市	秋葉区
市	244	記	天	小戸の大花梨	1 本	H 5. 1. 20	秋葉区小戸下組	個人	樹高12m、胸高周囲1.8m	新津市	秋葉区

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
市	245	記	天	北潟の大譲葉	1本	H5.1.20	秋葉区北潟	個人	樹高13m、胸高周囲21m	新津市	秋葉区
市	246	記	天	子成場柿	1本	H5.1.20	秋葉区浦興野	個人	樹高11m、胸高周囲1.7m	新津市	秋葉区
市	247	記	天	石崎家の紅梅	1本	H5.1.20	秋葉区新津本町	個人	樹高9m、胸高周囲24m	新津市	秋葉区
市	248	記	天	犬四手叢林	1個所	H5.1.20	秋葉区金津	佐久那殿神社	樹齢約100～200年	新津市	秋葉区
市	249	記	天	椿林	1個所	H5.1.20	秋葉区朝日	個人	樹齢50～300年	新津市	秋葉区
市	250	記	天	らかんまき 外	5本	H6.4.1	江南区荻曾根	個人	樹高9m（らかんまき）	亀田町	江南区
市	251	記	天	つばき	1本	H6.4.1	江南区袋津	個人	胸高周囲1.5m	亀田町	江南区
市	252	記	天	かや	1本	H6.4.1	江南区城山	個人	胸高周囲1.9m	亀田町	江南区
市	253	記	天	大久保の大ケヤキ	1本	H12.5.26	北区大久保	神明社 大久保自治会	樹高24m、胸高周囲6.5m	豊栄市	北区
市	254	記	天	お杉	1本	H15.11.12	西蒲区石瀬	大字石瀬	樹高22m、胸高周囲6.4m	岩室村	西蒲区
市	255	記	天	大杉	1本	H16.8.11	西蒲区樋曾	日吉神社	樹高36m、胸高周囲6.1m	岩室村	西蒲区
市	256	記	天	大榎	1本	H16.8.11	西蒲区石瀬	石瀬神社	樹高42m、胸高周囲5.2m	岩室村	西蒲区
市	257	記	天	羅漢楨	1本	H16.8.11	西蒲区石瀬	青龍寺	樹高11.5m、胸高周囲2.7m	岩室村	西蒲区
市	258	記	天	銀木犀	1本	H16.8.11	西蒲区石瀬	種月寺	樹高7m、胸高周囲1.5m	岩室村	西蒲区
市	259	記	天	多宝山の樺	1本	H16.8.11	西蒲区石瀬	個人	樹高20m、胸高周囲2.9m	岩室村	西蒲区
市	260	記	天	ご神木 樺	1本	H16.8.11	西蒲区和納	八幡神社（三社神社）	樹高8.5m、胸高周囲7.4m	岩室村	西蒲区

凡例 「種別欄」は、（ ）内の略号で表記。

有形文化財 建造物（建）、絵画（絵）、彫刻（彫）、工芸品（工）、書跡・典籍（書）、古文書（古）、考古資料（考）、歴史資料（歴）

無形文化財 芸能（芸）、工芸技術（工技）

民俗文化財 有形民俗文化財（有民）、無形民俗文化財の民俗芸能（民芸）、無形民俗文化財の風俗慣習（風）、無形民俗文化財の民俗技術（民技）

記念物 史跡（史）、名勝（名）、天然記念物（天）

(2) 新潟市所在の国登録文化財一覧表(平成29年3月31日現在)

No.	名 称	員数	登録年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
1	新津記念館	1棟	H10. 4. 21	中央区旭町通	公益財団法人新津記念館	昭和13年	新潟市	中央区
2	北方文化博物館 主屋・大広間ほか	26棟	H12. 4. 28	江南区沢海	一般財団法人北方文化博物館	明治20年	横越町	江南区
3	太古山日長堂 主屋・仏蔵	2棟	H12. 4. 28	北区新崎	一般財団法人太古山日長堂	18世紀中期	新潟市	北区
4	佐野商店 店舗兼住宅	1棟	H12. 4. 28	中央区沼垂東	個人	昭和12年	新潟市	中央区
5	二宮家住宅 主屋・農舎	2棟	H12. 4. 28	江南区抜柳	個人	人正7年	新潟市	江南区
6	斎藤家住宅 主屋・土蔵	2棟	H12. 4. 28	中央区関屋本村町	株式会社斎藤不動産	明治初期	新潟市	中央区
7	樋木酒造 店舗兼主屋・西・東酒蔵	3棟	H12. 4. 28	西区内野町	公益財団法人鶴友会	20世紀初期	新潟市	西区
8	木揚場教会	1棟	H12. 4. 28	中央区礎町通	木揚場教会	大正15年	新潟市	中央区
9	行形亭 主屋ほか	10棟	H12. 4. 28	中央区西大畑町	株式会社行形亭	19世紀中期	新潟市	中央区
10	鍋茶屋 主屋ほか	7棟	H12. 4. 28	中央区東堀通	合資会社鍋茶屋	明治43年	新潟市	中央区
11	燕喜館(旧斎藤家住宅) 主屋	1棟	H12. 4. 28	中央区一番堀通町1-2	新潟市	明治41年	新潟市	中央区
12	北方文化博物館新潟分館 主屋・洋館ほか	7棟	H12. 4. 28	中央区南浜通	一般財団法人北方文化博物館	明治28年頃	新潟市	中央区
13	諸橋家住宅 主屋・土蔵	2棟	H13. 11. 20	江南区茗荷谷	個人	大正10年頃	新潟市	江南区
14	飯田家住宅土蔵	1棟	H14. 8. 21	西区内野町	個人	明治22年	新潟市	西区
15	吉田家住宅 主屋・座敷棟・土蔵	3棟	H15. 1. 31	秋葉区大鹿	個人	明治16年	新津市	秋葉区
16	大橋屋 主屋及び土蔵	1棟	H15. 7. 1	中央区本町通	個人	昭和10年	新潟市	中央区
17	亀田町上水道高架水槽	1棟	H15. 7. 1	江南区亀田水道町2-4-3	新潟市	昭和8年	亀田町	江南区
18	高島屋 主屋・土蔵・旧米蔵	3棟	H16. 7. 23	西蒲区岩室温泉	個人	宝暦5年	岩室村	西蒲区
19	新潟大学 旭町学術資料展示館ほか	2棟	H17. 11. 10	中央区旭町通	国立大学法人新潟大学	昭和4年	新潟市	中央区
20	旧第四銀行住吉町支店	1棟	H17. 11. 10	中央区柳島町2-10	新潟市	昭和2年	新潟市	中央区
21	妙光寺 三重小塔・山門・鐘楼	3棟	H18. 3. 2	西蒲区角田浜	妙光寺	18世紀後期	巻町	西蒲区
22	小林家住宅 主屋	1棟	H18. 3. 27	中央区南昆沙門町	個人	昭和13年	新潟市	中央区
23	石本家住宅 主屋ほか	6棟	H19. 12. 5	江南区東本町	個人	明治34年～昭和初期	亀田町	江南区
24	内島兄 観音堂・仁王堂	2棟	H19. 12. 5	北区内島兄	宗教法人養福寺	元治2年・明治34年	豊栄市	北区
25	石動神社 本殿・拝殿	2棟	H20. 7. 8	北区白新町	宗教法人石動神社	寛政8年	豊栄市	北区
26	古峯神社 本殿	1棟	H20. 7. 8	北区白新町	宗教法人石動神社	天保8年	豊栄市	北区
27	稲荷神社 本殿・拝殿及び幣殿・神輿庫	3棟	H20. 7. 8	北区葛塚	宗教法人稲荷神社	文化12年	豊栄市	北区
28	開市神社 拝殿	1棟	H20. 7. 8	北区葛塚	宗教法人稲荷神社	明治4年	豊栄市	北区
29	原家住宅 主屋ほか	10棟	H28. 8. 1	江南区二本木	個人	明治35年～大正3年頃	横越町	江南区
30	敬覚寺本堂	1棟	H28. 8. 1	江南区酒屋町	宗教法人敬覚寺	大正8年	新潟市	江南区
31	小松屋旅館 本館・広間棟・表座敷棟・奥座敷棟	4棟	H28. 8. 1	西蒲区岩室温泉	個人	大正3年～昭和32年	岩室村	西蒲区

2 区別・ジャンル別文化財件数表（平成29年3月31日現在）

（1）区別

区名		主な旧市町村・地区	国指定	県指定	市指定	指定計	国登録	合計
1	北区	豊栄市・北地区	2	1	25	28	6	34
2	東区	中地区・東地区・石山地区	0	1	0	1	0	1
3	中央区	中央地区・東地区・南地区	10	15	27	52	12	64
4	江南区	亀田町・横越町・石山地区・南地区	1	3	17	21	7	28
5	秋葉区	新津市・小須戸町	2	7	37	46	1	47
6	南区	白根市・味方村・月潟村	2	2	15	19	0	19
7	西区	黒崎町・坂井輪地区・西地区	0	6	29	35	2	37
8	西蒲区	巻町・西川町・潟東村・中之口村・岩室村	2	5	110	117	3	120
合 計			19	40	260	319	31	350

（2）ジャンル別

種 別		国指定	県指定	市指定	指定計	国登録	合計	
有形	建 造 物		5	1	16	22	31	53
	絵 画		1	3	18	22	0	22
	彫 刻		1	5	14	20	0	20
	工 芸 品		1	1	11	13	0	13
	書 跡 ・ 典 籍		1	3	29	33	0	33
	古 文 書		0	3	21	24	0	24
	考 古 資 料		1	10	25	36	0	36
	歴 史 資 料		0	5	31	36	0	36
無形	芸 能		0	0	1	1	－	1
	工 芸 技 術		0	0	1	1	－	1
民 俗	有 形 民 俗		1	1	16	18	0	18
	無形民俗	風 俗 慣 習	0	1	0	1	0	1
		民 俗 芸 能	0	0	23	23	0	23
		民 俗 技 術	0	0	0	0	0	0
記 念 物	史 跡		3	2	18	23	0	23
	名 勝		1	1	1	3	0	3
	天 然 記 念 物		4	4	35	43	0	43
合 計			19	40	260	319	31	350

平成28年度 新潟市文化財調査概要

平成29年11月発行 (非売品)

編集・発行 新潟市教育委員会
(新潟市文化スポーツ部歴史文化課)
〒951-8550
新潟市中央区学校町通1番町602番地1
TEL (025) 228-1000 (代表)

印刷 株式会社ウィザップ
〒950-0963
新潟市中央区南出来島2丁目1-25
TEL (025) 285-3311